

14. 2ハ-125



1200501165773

125

帯廣市の産業

帯廣市役所編

昭和十五年版



始



14.2  
125

昭和十三年度版

帯廣市の産業

帯廣市役所



業産の市廣帯



序

開基以來五十有餘年、農村都市として發展して來た我帶廣市は今や地方商工業の中心都市として更に一段の躍進を試みんとして居る。新興帶廣市の現在を檢討し更に將來を期待せんとせば先づ當市の經濟母體たる十勝平野に就て知らねばならぬ。

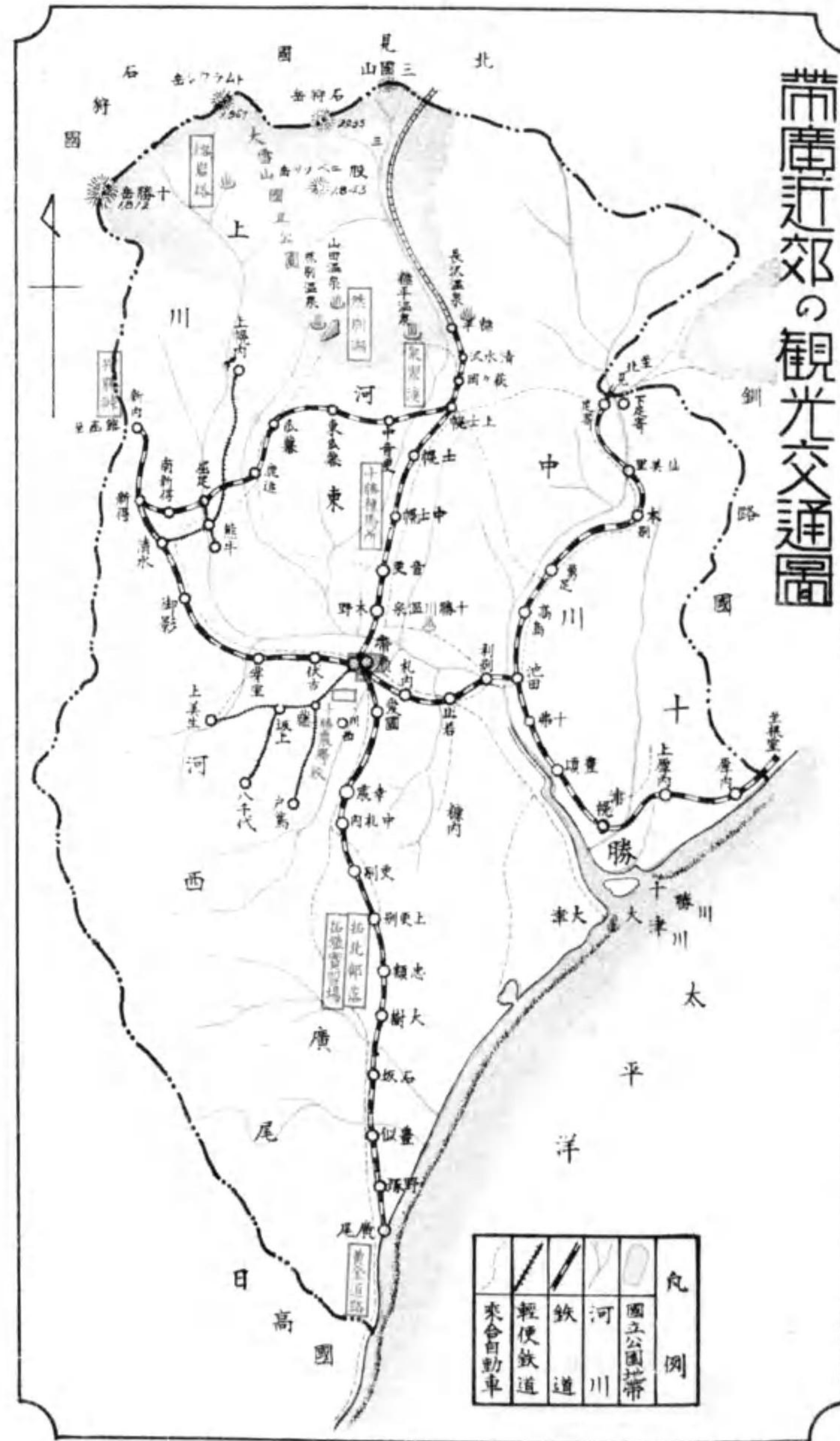
十勝平野は北海道本島の東南部に位し廣袤六百三十二方里、本道面積の一割強を占め青森縣より稍々大きく徳島、愛媛の二縣を合したものと匹敵し平坦肥沃な大平源で實に二十八萬七千餘町歩の農耕適地を有する無盡藏の大富源である。



11  
751

此の平野は現在耕地面積二十一萬一千八百三十七町歩を有し、其の農産物生産額は二千萬圓に達して總生産額の半を占め、更に畜産王國としての名に背かず馬匹總數は内地有數馬産地たる青森縣に匹敵し、又畜牛頭數に於ても飼養頭數九千九百頭、一ヶ年間搾乳量八萬五千六百九十六石を示し、農産加工業及乳製品製造工業最も有望視され、其の他水産、林産等の天然資源も亦豊富なるを以て、之等の資源を利用し工業化する天恵を有し、而して國土の廣大なるに比し人口未だ稀薄、生産額の少額より見るも本市の將來は洋々と躍進すべき素地を有し産業都市として其の名を全國に謳はれる日も近き將來にあることと信ずる。

帯廣近郊の観光交通圖



目次

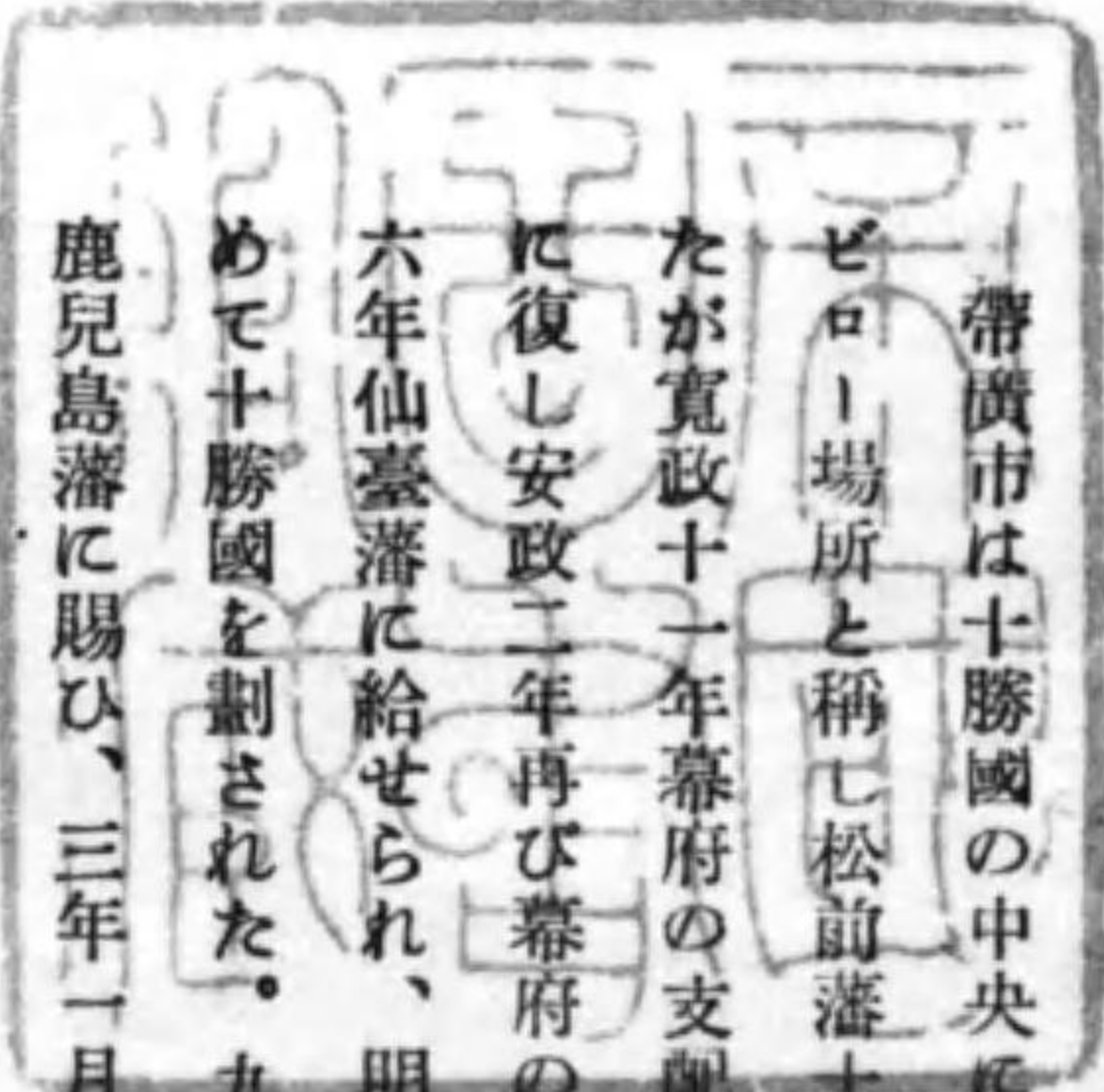
一、	二、	三、								
(一) 總	(一) 農	(二) 畜	(一) 農	(二) 畜	(一) 畜	(一) 畜	(一) 畜	(一) 畜	(一) 畜	(一) 畜
沿	農	馬	農	農	農	農	農	農	農	農
革	業	匹	業	業	業	業	業	業	業	業
說	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三

(四)	(三)	(二)	(一)	附	八、	七、	(五)	(四)
官	土	近郊の名所案内	市内案内	録	産	交	倉	金
公	産				業	通	庫	融
衙	品				團	運		
.....	.....	.....	.....		體	輸		
.....	.....	.....	.....		.....	.....	.....	.....
一六	一四	一五	一		三三	三三	三三	二六

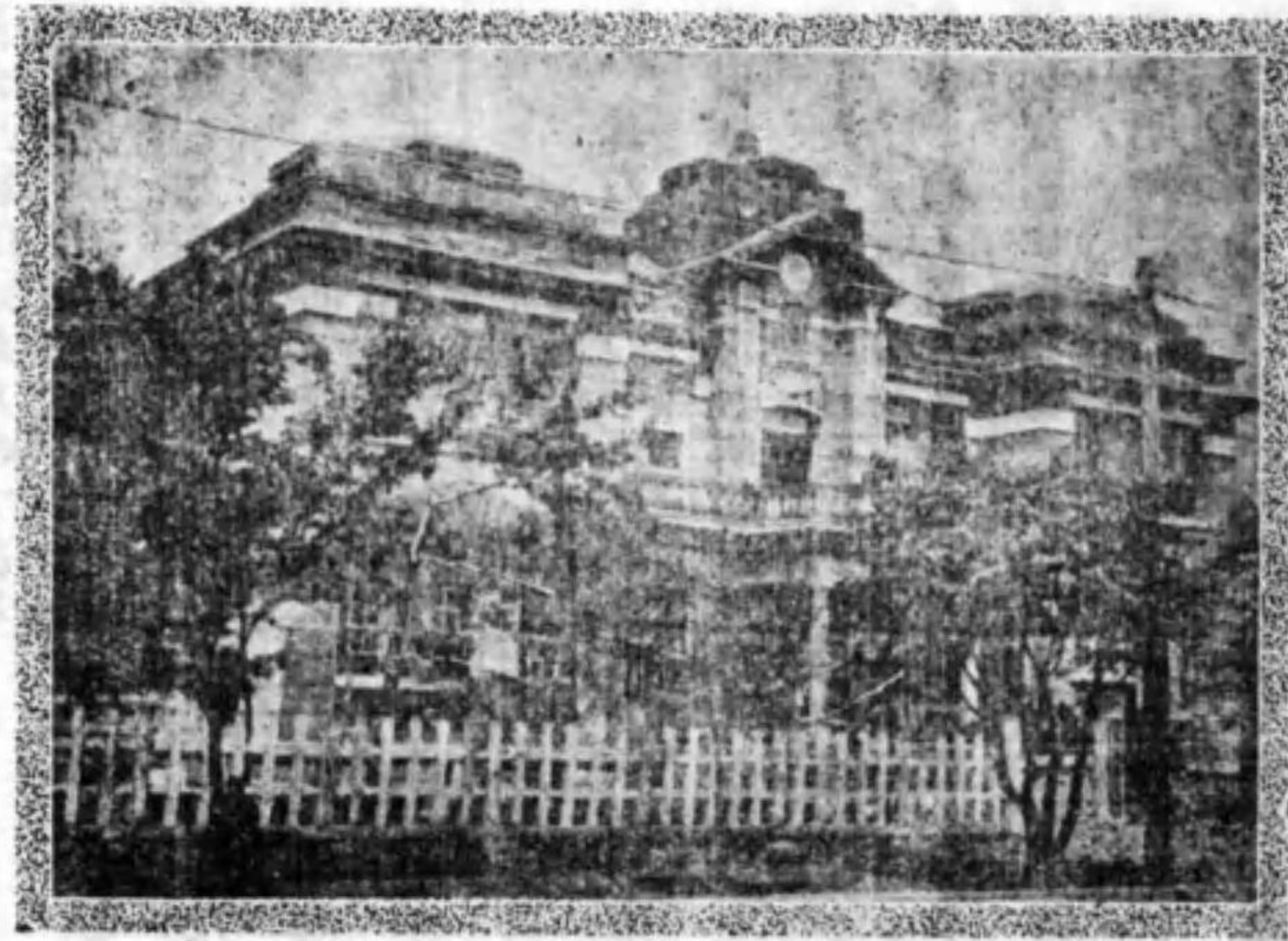
(三)	(二)	(一)	六、	五、	四、	(五)	(四)	(三)	(二)
會	市	商	商	工	水	家	其	養	畜
社	場	業	業	業	産	禽	他	狐	牛
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	の	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	家	.....	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	畜	.....	.....
二六	二五	二三	二三	一八	一七	一七	一六	一五	一四

一、總 說

(一) 沿 革



帶廣市は十勝國の中央に位し、藩政時代十勝國は  
 比羅川場所と稱し松前藩士蠣崎藏人の給與地であつ  
 たが寛政十一年幕府の支配となり、文政四年松前藩  
 に復し安政二年再び幕府の支配する處となつた、同  
 六年仙臺藩に給せられ、明治二年開拓使を置かれ始  
 めて十勝國を劃された。九月之を二分して靜岡藩及  
 鹿兒島藩に賜ひ、三年一月鹿兒島領の一部を割いて  
 一橋卿、田安卿に賜ひ、十月鹿兒島藩の支配を罷め  
 て之を一橋、田安兩家に頒賜せられた。これ十勝國



所 役 市 廣 帶



が藩領時代の大概であるが、當市は海岸より速い爲開發が比較的遅れたのである。

帶廣の地名はアイヌ語の「オベレヘルブ」であつて「川尻の壊れたる川」と云ふ意味である。明治十六年五月九日晚成合資會社が靜岡縣人依田勉三を首領として十三戸の農家を移住せしめたのを以て本市の創始とする。當時は唯廣漠たる大平原であつて、巨樹亭々として天に摩し羆熊や鹿、狐狸等の横行に任せ、陸上交通の便は全然なく、僅に十勝川にアイヌ土人の操縦する丸木舟の便に依るのみであつた。

明治二十五年釧路國標茶集治監より分監を設置せられ、其の囚人の手に依り初めて一條の道路大津より開通した。同二十六年戸長役場の設置を見、三十五年北海道二級町村制施行せらる、三十八年釧路より鐵道の開通を見、四十年函館本線に接續全通した。爾來歲月を経、交通の便加はると共に移民各地より蝟集し、四圍の原野の開發せらるゝに伴ひ、商工業益々發達し、地方行政の中心地として諸官衙設置せられ、大正四年四月より一級町村制を實施せらる。大正十年二月十勝監獄用地の一部を割き、市街宅地凡二千戸（一戸百六十二坪）更に昭和三年二月市街宅地凡千五百戸を設定し、夫々民間に賣拂はれ茲に大帶廣の基礎構成せられたのであるが、後亦更に急激な發展を遂げ、昭和八年四月一日從來の帶廣町の區域を以て市制施行せられ茲に完全に自治體を構成するに至つた



市街の遠望

目下都市計畫も着々進捗し之と相俟つて教育、衛生、警備の施設も年を追って備り名實共に産業都市として發展の氣運を示して居る。

今本市既往五箇年の生産額を擧ると次の通である。

年次	農産	畜産	林産	水産	礦産	工業	計
昭和十二年	六五八、四二四	二九二、七六三	一、五三七	三五、一〇一	七、七五二	二、八三五、一三三	三、八九五、六九七
昭和十一年	五〇三、〇一〇	二六五、八九四	三、三七	三一、九五九	四、六七一	二、三三五、一四四	三、一八二、〇四九
昭和十年	二八五、一四七	二六、九六四	二、八三	四五、七三七	四、七三三	二、五三四、二五九	三、一三九、七三二
昭和九年	四三三、九五五	二二、五〇〇	五、〇〇	三〇、七七一	三、四三九	二、二八四、九九九	三、一九七、〇三三
昭和八年	四六三、五六五	一九、八五三	七、七三	二六、〇〇六	二、九三六〇	一、二八七、四一三	二、〇〇〇、九一〇

## (二) 位置、地勢

帶廣市は北海道の東南部東經百四十三度十二分、北緯四十二度五十五分、十勝平野の中心に位し、十勝川及札内川、市の東北を廻り帶廣川の清流市の中央部を貫流し、市街は平坦である

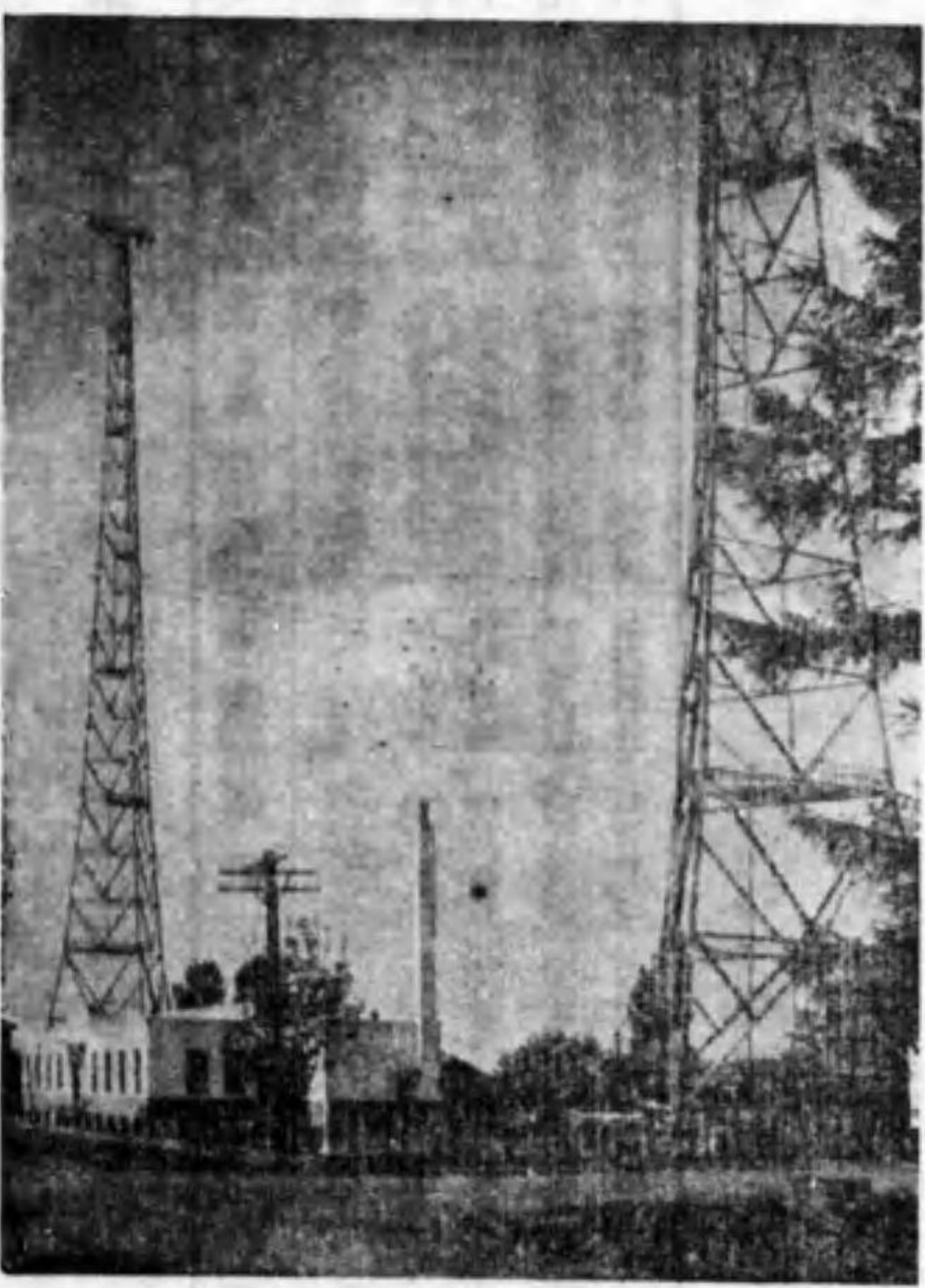
市街區劃は大通を中心として東西に條を分ち、石狩通を基線として南北に丁を算へて恰も碁盤目の如く整然として居る。

(三) 廣 表

當市の廣表は東西二里三十一町、南北一里二十九町、其の面積は三方里二分八厘八毛であるが目下都市計畫の進捗に伴ひ、隣接川西村及音更村の一部を併合し市域の擴張を期待されて居る

(四) 氣 候

本市は全國でも雨量の尠い地方である。氣温は大陸的で寒暖の差が比較的甚だしいが冬期間は概して晴朗で住宅には防寒の設備が整つて居るので凌ぎにくい様なことはない。



局 送 放 廣 帯

(五) 土 地

本市の民有地は有租地三千三百七十七町二反 免租年期地二百三十四町九反 無租地五十四町五反  
 有租地の内譯を表示せば左の通である。

地 目	反 別	賃 貸 價 格	平均一反歩賃貸價格
田	三七・五	二四・〇六七	七・三五
畑	一・五二九・三	六三・〇六五	四・一二
宅	一四八・七	二二四・五一八	一四四・二六
山	一二・三	二九	二四
牧	六五・〇	一〇四	一六
原	一・〇六〇・二	一・九三五	一八
雜	一七一・三	六・七七二	三・九五
池	二・九	一一一	四・一七
合 計	三・三一七・二	三一〇・六一一	九・三六

(六) 戶 口

大正四年四月組合町村より獨立し一級町村制を施行せられた當時は世帯數一千九百五十戸、人口

八千四百五十七人であつたが、昭和十年十月一日現在では、世帯数六千九百八十、人口三萬五千六百九十五を算し、大正九年第一回國勢調査以後の増加率は全國一二七市（昭和十年十月一日現在）中第五位で異常の増加率を示して居る。

職世大 業帯分 別數(類)	農 業	水 産 業	工 業	商 業	交 通 業	公 務 及 自 由 業		農 業 其 他 有 業 者	無 職 業 准 世 帯	計	一 戸 平 均 人 口	一 方 里 ノ 人 口
						公 務 及 自 由 業	農 業					
大正九年十月一日	三、〇三八	四、一七五	八、一六〇	二、三九八	七、二六三	一、五、四三二	五、〇〇〇	四、九〇八	六、六四三	六、六四三	六、六四三	六、六四三
大正十四年十月一日	四、一七五	五、四八九	一、二、三九八	一、四、四三五	九、三二七	二、〇、七三五	四、九五	六、六四三	八、九五	八、九五	八、九五	八、九五
昭和五年十月一日	五、四八九	一、四、四三五	一、八、一〇〇	一、七、五九五	二、八、一三五	五、一、一	一、〇、八五六	一、〇、八五六	一、〇、八五六	一、〇、八五六	一、〇、八五六	一、〇、八五六
昭和十年十月一日	六、九八〇	一、八、一〇〇	一、八、一〇〇	一、七、五九五	三、五、六九五	四、〇、九	三、二八	六、九八〇	六、九八〇	六、九八〇	六、九八〇	六、九八〇

## 二、農 業

### (一) 農家戸數並に耕地

本市は元來農村都市として發展し來つた關係上農作業戸數は五九一戸（副業を含む）従業者一、

六五八人を算し、從來の農業經營方法は菜豆類を主とし米作之に亞ぎ所謂穀作農業であつて僅に若干の蔬菜栽培を加味し來つたが最近市街近郊に蔬菜園藝發達して溫室、溫床等の高等栽培も試みられ、帶廣蔬菜の名は漸く先進地方を凌ぐに至つた。

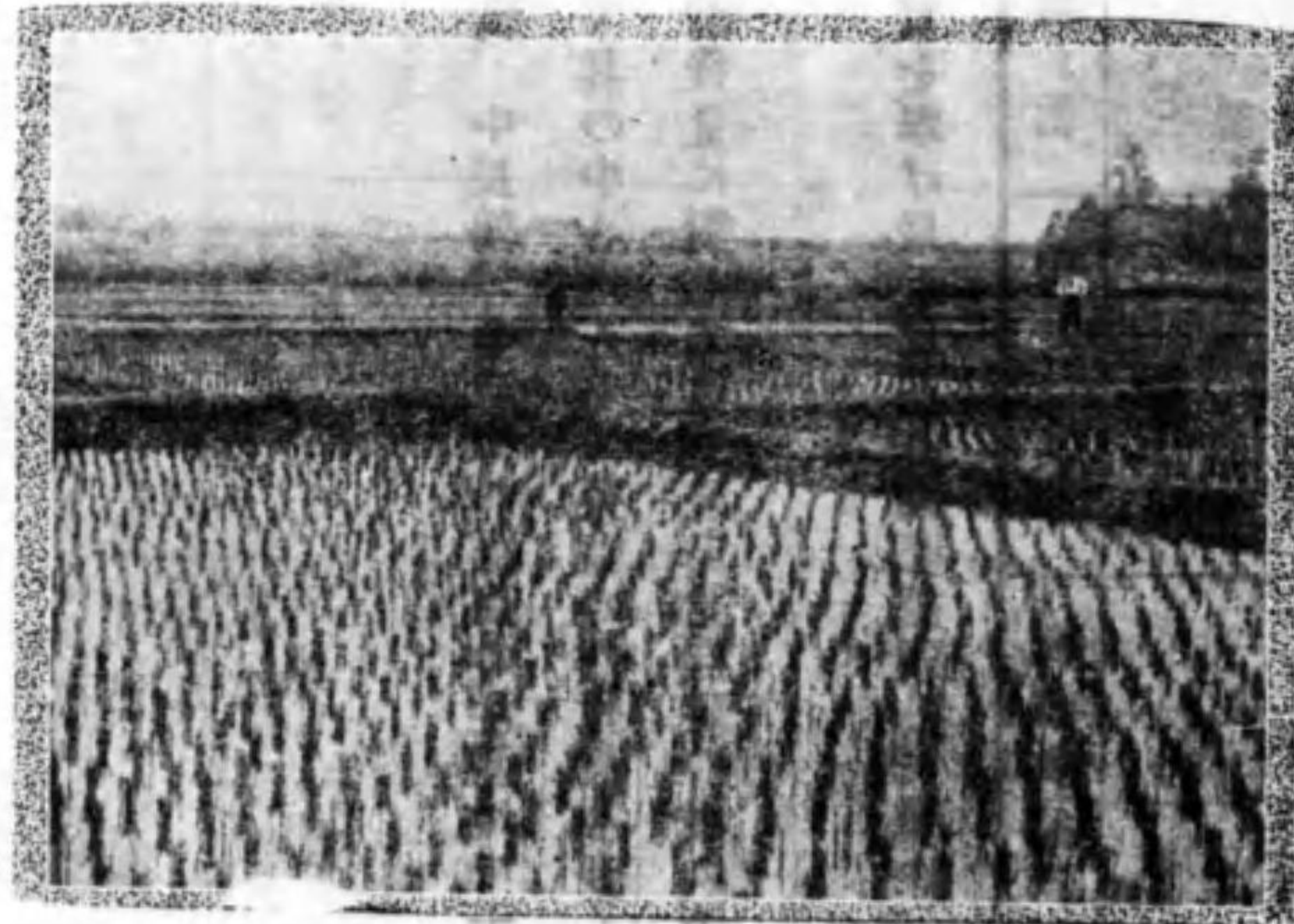
近郊の耕地は市街の發展に伴ひ住宅工場の敷地と變りつゝあるが然かも未だ昭和十二年末に於て二、六五一町歩の耕地面積を有して居る。

### イ、耕地面積

作付地	不作付地	計	合 計
田 五、六九二〇、二四七反	田 一、八四反	田 六、一五三〇、三六三反	田 二六、五四四反
畑 五、六九二〇、二四七反	畑 一、一五反	畑 六、一五三〇、三六三反	畑 二六、五四四反

### ロ、農作業戸口

種 別	主 業	副 業	計	就業者從屬者	計
自 作	八三	五	一三七	四四三	三、二八
					七、八八



田水の郊近市廣帯

自作兼小作	七九	一五	一六一	三二九	三〇〇	六一九
小計	二二〇	一五五	三七五	九四五	八九三	一、八三八
	三八一	二二五	六〇六	一、七〇六	一、五三九	三、二四五

(二) 農産物

十勝國は全國に於ける青豌豆、大豆、小豆、手亡、長鶉、中長鶉、金時等の菜豆の主産地で十勝産雜穀として世界市場に其の名を讃えられて居り、本市も其の中心地として菜豆の作付最も多く水稲は五百五十五町二反の作付はあるが其の收穫は本市の消費量に對しては到底自給自足の域に達せず他より移入しつゝある状態である。

蔬菜は温室、温床も逐年其の數を増し年歲其の改良の實を擧げ最近は花卉園藝擡頭して來た。

種類	作物名	作付反別	收穫高	價額	反當收穫高
米	米	五、五五七反	八、八〇一石	二七、五八六圓	一、五三三圓
大豆	大豆	四三	四二	五一一	九七七
小豆	小豆	二四一	二五四	四、五七二	一、〇五四
麥	麥	六九	六五	八八〇	九四三

種類	作物名	作付反別	收穫高	價額	反當收穫高
大豆	大豆	一、一〇一	二七	四一九	一、八七一
手亡	手亡	三	—	—	—
長鶉	長鶉	一、一〇一	—	二七、七三九	—
中長鶉	中長鶉	六三九	二五六、二五六	三三、七九三	四〇七
青豌豆	青豌豆	六六八	六二四、〇〇〇	一一、四八〇	九三三
青豌豆	青豌豆	一一	〇〇七、〇〇〇	二二	四
青豌豆	青豌豆	四六	四八、一七四	九六	一、七五〇
家畜	家畜	一四	一〇、一八一	二〇	七二七
茶	茶	—	—	—	—
豆	豆	—	—	—	—
豆	豆	—	—	—	—
豆	豆	—	—	—	—



### 三、畜産業

家畜家禽の飼養は農業經營上必須事項であり當市は畜産王國の中心地として農業の多角形經營、飼畜農業を極力奨励の結果特に畜牛に於ては純粹種を奨励し血種の向上に努力中である。

#### (一) 馬 匹

帶廣市としては一部に於て候補種牡馬及競走馬の育成をなすに過ぎないが、六百餘方里の十勝平野には隨所に放牧場あり若駒は充分に四肢を伸して縦横に馳驅して居る。此の様に於て放牧育成の結果十勝速歩馬、十勝産アラブ系競走馬の名は全國競馬界を風靡して其の名を讃えられて來たが最近滿洲事變並今次事變の結



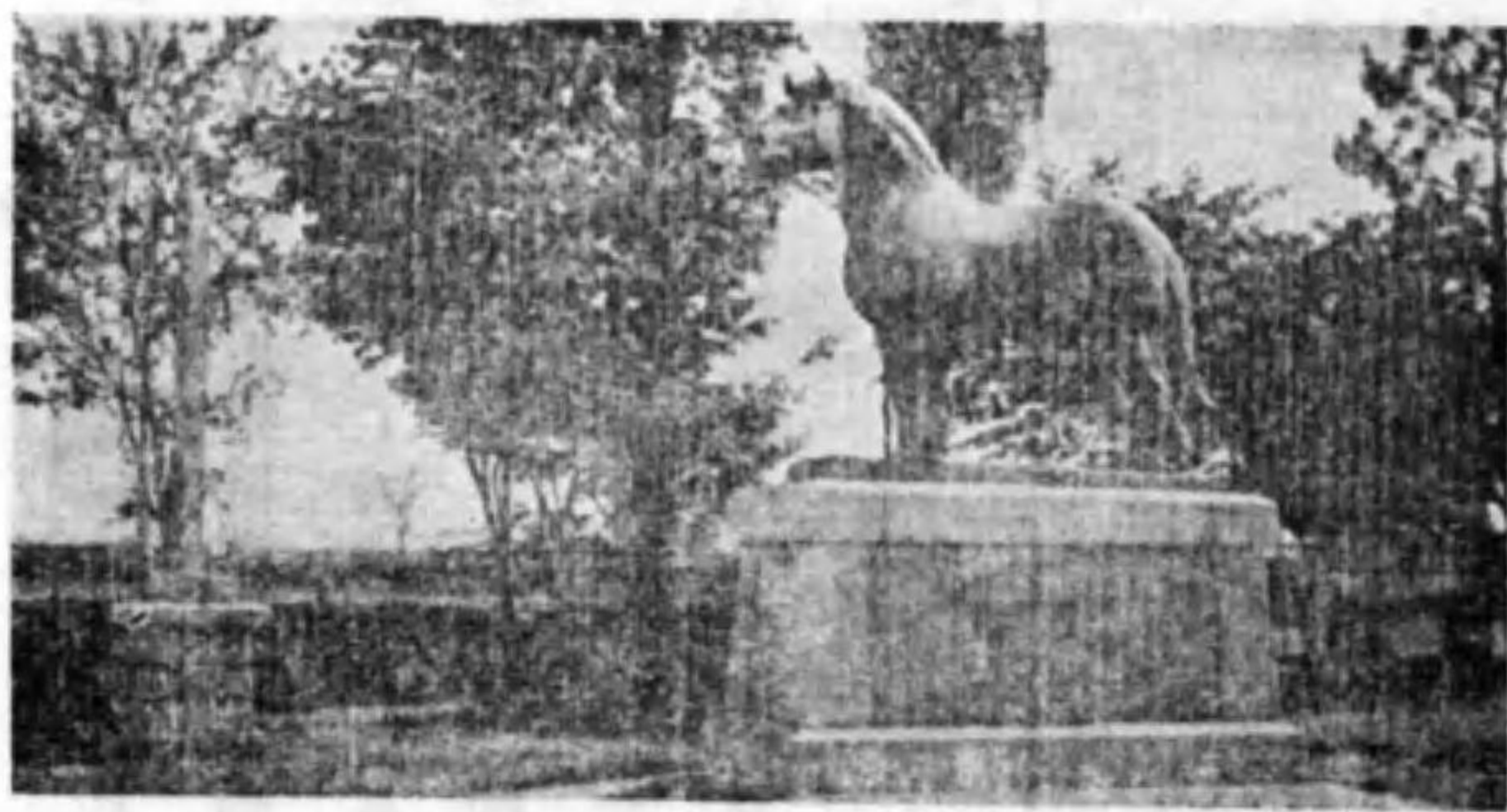
産馬共進會の盛況

果に徴し十勝産軍馬は其の意氣旺んなること、耐久力の大なる點に於て他地方産の軍馬に比較し軍部の絶讃を惜まなかつた處である。

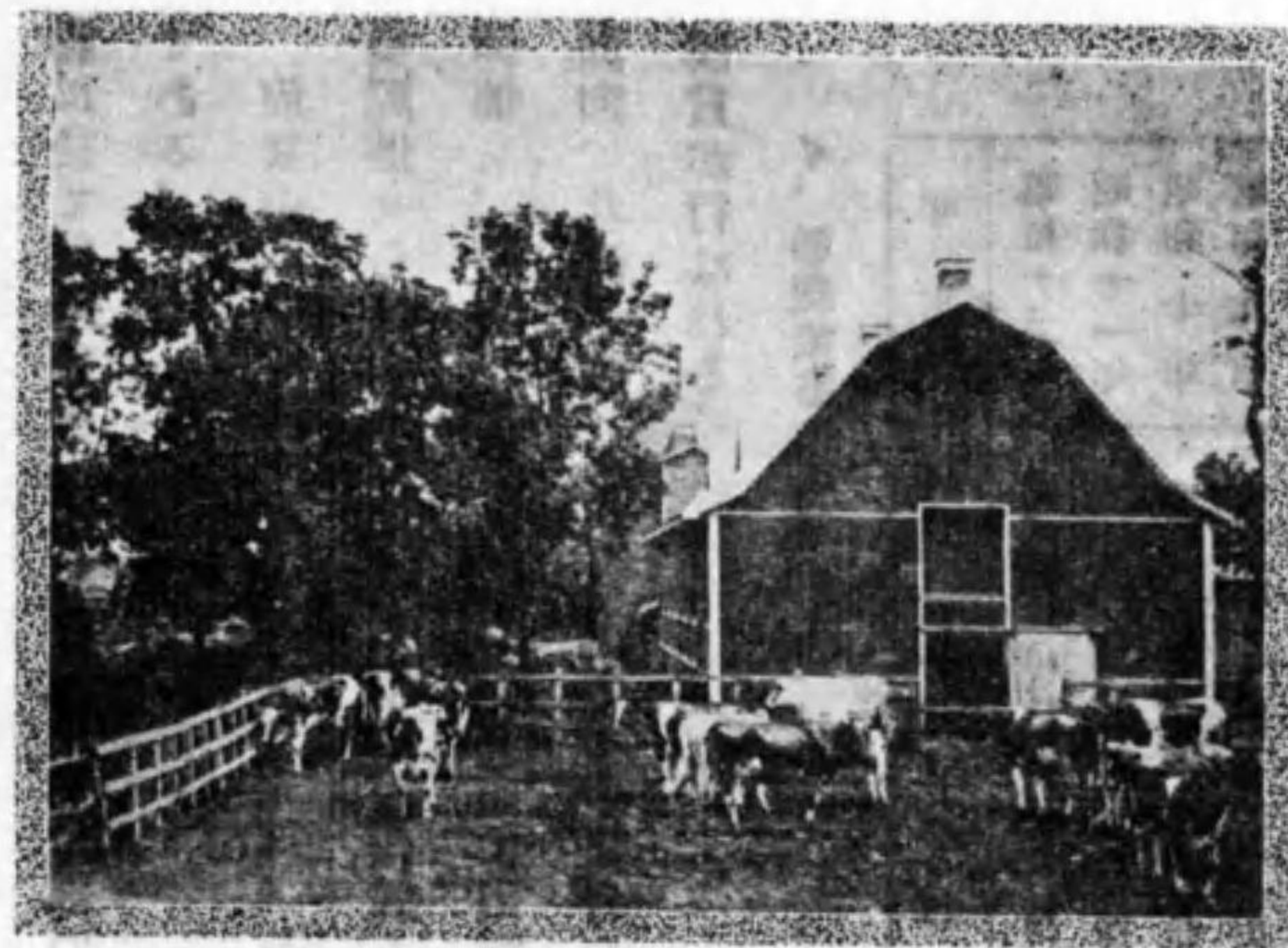
尙當市には毎年四月、八月、九月、十一月の四回定期家畜市場開催せられ、八月には十勝中の優駿を網羅せる馬匹共進會を開催し、出陳馬は全部八月の馬市に出場せしめて、農林省、滿洲國、北海道廳、各府縣廳各畜産組合の候補種牡馬購買及軍馬購買が行はれる。

#### イ、帶廣家畜市場成績

年次	出場頭數	賣買頭數	金額	最高	最低	平均
昭和十二年	四、八三五	四、二六三	八七八、三四四	二、一〇〇	三〇	二〇六・八三
昭和十一年	三、九三六	三、二五九	五七六、六九三	一、八〇〇	六	一一五・五八
昭和十年	三、六六七	二、八八七	三三九、三三三	二、〇〇〇	一〇	一一四・〇七
昭和九年	二、八八一	二、四三四	二五九、〇九二	二、一〇〇	一八	一〇六・四五
昭和八年	三、〇三七	二、四三八	二二二、六七三	一、七〇〇	一〇	八七・三〇



イネレ一號銅像



畜牛飼養状況

(二) 畜牛

當市に於ける畜牛の歴史は古く血種も相當に向上し來つたが特に昭和六、七年の凶作以來單なる穀菽農業のみの農業經營方法の危險性を痛感した農家の間に急激に増加し酪農王土の建設も近いことであらう。搾乳を目的とする爲ホルスタイン種が大部分であつて血種の向上し居る點と泌乳能力に於ては將に先進地方を凌駕せんとして居る。

イ、乳牛頭數及搾乳量

年次	搾乳業農家其ノ他		乳牛頭數	搾乳量	價額
	搾乳業	農家其ノ他			
昭和十二年	—	八八	三六〇	五、六三石	八、五八八
昭和十一年	—	二六	三二四	六、六三石	八、三、七二
昭和十年	—	二七	三八〇	七、一七六	八、九、七〇
昭和九年	—	一〇	三七六	七、〇七	八、一、六六三
昭和八年	五	—	三四二	六、四四七	八、三、九四九

(三) 養狐

最近據頭して來た畜産業に養狐養狸等の毛皮産業がある。當地は氣候の好適なる點と交通の便に恵まれたる點に於ては先進地方の經驗者より將來最も有望な毛皮産地と折紙を附され其の成績は樺太地方のものに匹敵する優良品を生産するに至つた。現在當市に於ける養狐は殆んど銀黒狐で其の數は次表の通りである。

現在大部分は種狐として販賣されて居るが漸次毛皮として海外市場に進出近い將來に於ては重要輸出品の一となるであらう

イ、養狐状況 (昭和十三年二月一日現在)

養狐場數	頭數		毛皮生産量
	牝	計	
一一	八六	六七	一五三
			五七



養狐場

尙市郊外に付二百頭程度飼養し養狐場數あり

口、養狸狀況

養狸場數	頭數		毛皮生産量
	牝	牡	
二	一四	一四	二八

(四) 其の他の家畜

其の他の家畜としては兎、緬羊、豚等であつて、養兎は單に農家ばかりでなく、市内婦女子の副業として盛んで陸軍納入の毛皮も相當數に上つて居り豚は市郊外の一部に於て飼養されて居るに過ぎず。

緬羊は當市としては餘り盛んでなく一部の副業として飼養されて居る程度であるが、十勝全般から見るときは有望な畜産業の一つであつて陸軍の羊毛現地購買が行はれる。

事變前はホームスパン服地、ネクタイ等の製造が相當行はれて居たが最近は原料統制の結果自家用

に止まつて居る。

(五) 家 禽

養鶏は專業副業共相當盛んで毎年業者間に於て養鶏品評會を開催して比較研究し改良に努力して居る。品種は大部分白色レグホン種である。

鶯は養鶏家の一部に副業として飼養されて居る程度で全部が陸鶯(カーキーキャンベル)である

年 次	鶏			鶯		
	飼養戸數	成 禽 數	産 卵 數	飼 育 戸 數	成 禽 數	産 卵 數
昭和十二年	三六四	五、〇七三	四九七、四五四	三	七	100
昭和十一年	三四四	五、七二七	六九六、九三〇	一一	七	110
昭和十年	四七三	五、二二三	四二二、三三五	二四	二五	六一九

四、水 産 業

本市の水産業は十勝川を遡上する鮭の漁獲と鯉の養殖のみで微々たるものであるが、養鯉は最近其の確實なることが一般に認識せられ農家副業として有望視さるゝに至つた。



イ、養 殖

種 類	養殖場數	養 魚 池		計	數 量	價 額
		溜池其ノ他	計			
こ び	二	一四、六三七坪	一	一四、六三七坪	六、三〇〇貫	一五、七五〇
きんぎよ	一	六〇〇	一	六〇〇	七五、〇〇〇貫	一、二七五
ま す	一	五三五	一	五三五	—	—
計	四	一五、七七二坪	二	一五、七九四	—	一五、七五〇

種 類	漁 場 數	漁 獲 高	價 額
鮭	一	二、八〇七貫	二、五二六圓

五、工 業

(一) 工 業 概 況

本市は由來農村を背景とする商業都市であつた關係上工業は寔に微々たるもので農産加工が其の主たるものである。過去に於ては醸造業、亞麻製線、製材等が其の主たるものであつたが最近畜牛

の増加に伴ひ乳製品工業の勃興著しく將來は農産加工工業が最も有望視され本年新に大藏省無水酒精工場、極東煉乳株式會社農産加工工場等設置せられ更に市外札内市街に國策バルブ工場設置決定する等將に工業都市として面目を一新せんとして居る

(二) 主 要 工 業 品

甜 菜 糖 甜菜より製する砂糖で此の種の製糖工場は全國に四工場より無い特殊なものである。

工場は市の隣接川西村にあるも本社は市内に在る爲帯廣市の甜菜糖として有名である。北海道製糖株式會社の經營であつて年産七百萬圓に達し、副産物としてビートパルプ、糖蜜、營養酵母劑「バンドミン」等がある。

乳 製 品 十勝國に於ける畜牛の増加に伴ひ急激に勃興し



北 海 道 製 糖 株 式 會 社 工 場

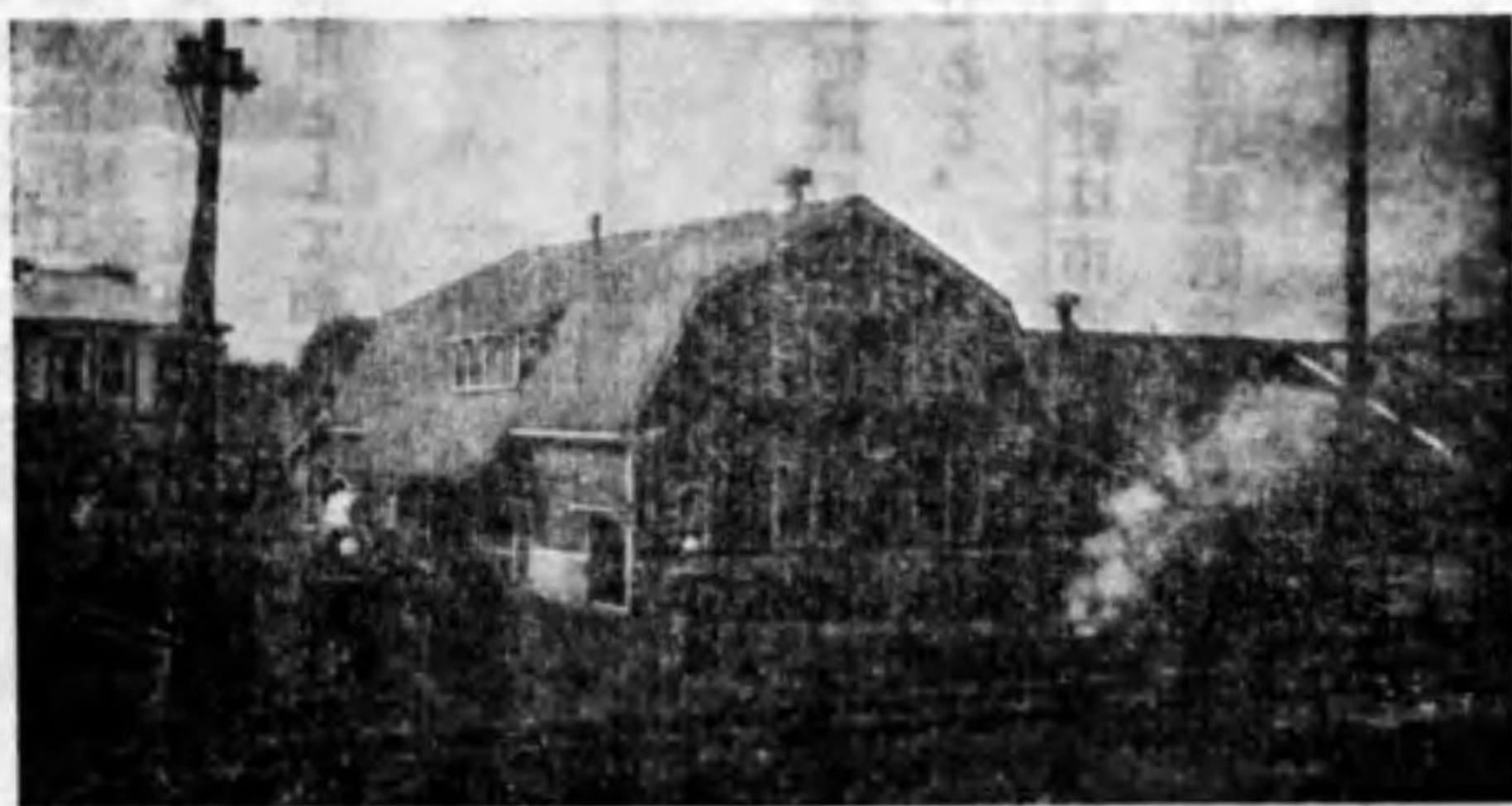
た産業の一で極東煉乳株式会社十勝工場のミルク（金星、金  
鶏、金線）及北海道製酪販賣組合聯合會帯廣工場のバター  
（雪印クロバー印）は國內中央市場ばかりでなく速く滿洲、  
支那、南洋方面に進出し右組合工場生産に係るカゼインは輸  
入防遏に氣を吐いて居る。

**製材** 製材業は本市工業中最も其の歴史古く、十勝平野  
を圍繞する原始林より伐採される木材を製材するもので現在  
五工場、年産四十萬圓に達して居る。

**菓** 子 穀類、ミルク、砂糖等主要原料が本市で生産せら  
るゝ爲製菓業は最も有望な事業で、年産二十四萬圓、最近土  
産品としても研究されつゝあるものである。

**醸造** 物 本市は水質酒造に好適し、晃邦（小川醸造）龜の  
露（帯廣酒造）千歳鶴（日本清酒）等全道的に著名である。  
又原料の豊富な關係上醤油、味噌の醸造も年歳盛になりつゝ

極東煉乳株式會社工場



ある。

**家具、建具** 原材料の豊富なるに依り木工業は夙くより發達し特に工業組合の結成に依り品質の向  
上に努めつゝあるが今夏工業組合の共同乾燥工場及加工場の究成により一段と飛躍せんとして居  
り最近本市の木製品は先進地方を壓せんとする機運を見るに至つた。

**農具** 廣袤六百三十二方里二十八萬餘町歩の農耕適地を有する十勝國の中心都市たる本市に  
優良農具の生産さるゝは理の當然であつて、道廳及各府縣廳より優良農具として指定推獎を受け  
て居るのも尠くない、近年大農經營に適する農具は滿洲國に進出しつゝある。



北海道製酪販賣組合會工場

(三) 工産品産額

品目	價額	品目	價額
絹織物	三、八三二	植物性肥料	一、二〇二
毛織物	一、八三五	製材	三、九八一
メリヤス製品	二、九六三	印刷	一、四九三
帽子	四、一五	菓子	一、四〇六
漆器	一〇、六八二	麵類	一〇、九五六
皮革製品	二〇、四四〇	清酒	二、三五〇
植物油	三、〇三五	醬油	一、一〇三
木製品	一、三六八	味噌	七、五〇六
竹製品	一、九四〇	其ノ他食料品	六、七二六
杞柳製品	四、四	被服類	三、四一六
薬製品	一、三〇五	其他	四、九七四
乳製品	九〇六、四九八	計	二、八三五、一三三
セメント製品	一八、二八〇		

六、商 業

(一) 商業概況

最近打續く凶作に依つて農村の購買力著しく減退し更に諸般の物資統制、消費節約運動等の餘波を受けて中小商業の經營は相當困難を感ぜられるに至つたが進取の氣象に富む當市の當業者は致々營々として其の打開策を講じ交通機關の完備と相俟つて商品仕入の選擇販賣方法、店舗の裝飾、陳列、照明等に大いに其の改善の跡を見せて居る。

本市の商業世帯數は二、二四七世帯（職業大分類）に及び商舖の營業收益税を課せられるもの七八〇戸を算し米雜穀、蔬菜、日常生活必需品の集散地及供給地として附近農村に對しては牢固なる地盤を有し且つ雜

輸出雜穀人撰の状況



穀の産地市場として有名である。

如上の如く當市の商業は農村を背景として居るため其の消長は一般的の景氣に依ることは勿論であるが附近農村の農作物の豊凶如何に左右せらるゝのも亦止むを得ぬ處である。

物品販賣業者分類表 (昭和十二年三月三十一日現在)

主要取扱商品	商店数	主要取扱商品	商店数
穀類	五	木材、竹	三二
蔬菜類	三九	石材、瓦、セメント、土石類	九
豆類	三	建築具、家具類	三三
魚介類	三	壘球、表、荒物類	一九
藻類	三	陶磁器、硝子品類	一七
肉類	六	金屬材料、金屬器具類	三〇
酒類、調味料、清涼飲料類	二九	皮革、機械、革其ノ製品類	一三
菓子類	一四	織物、被服類	七四
茶類	三六	綿糸、編物、粗物類	三二
其ノ他飲食料品	三三	紙、紙製品、文具類	二八
各種飲食料品	三三	玩具、運動具、遊戲品類	一四
肥料	三	小間物、洋品類	二九
燃費	三		

履物	雨具類	三六
藥品	染料、化粧品	三三
度量衡	其ノ他精密機械	一一
電氣	器具、機械	一一
機械、車輛、農具		一一
古物		一〇、九六
新聞、圖書、其ノ他出版物		三六
其他貨物		一一
各種貨物		一一
計		一〇、九六

(二) 市場

本市に於ける鮮魚類、蔬菜、果實類の供給機關は道廳の一市町村一市場の方針に依り株式會社一鱈帶廣魚菜卸賣市場の獨占する處であるが物資の供給圓滑に行はれ、許可仲買人一、二名に及び取扱年額七四一、二九三圓に達し營業成績も良好で堅實に發達して居る

年次	鮮魚介海藻類	果實蔬菜類	鹽干物類	合計
昭和十二年	三三三、五六八	一、九三、三三三	一一〇、九〇一	七、二二、二九六
昭和十一年	二九一、三〇三	一、〇〇、〇〇〇	一〇、七、七〇二	七、六、二〇〇
昭和十年	二九三、三三六	一、〇〇、〇〇〇	一七六、五六八	六、七、一四四

小賣市場は十市場共全部私設市場であるが其の成績良好で、最近出店者の自覺により特殊な「商

店街」として發展しつゝある

年次	小賣市場數	出店者數	賣上高
昭和十二年	一〇〇	一二五	四六七、七七〇
昭和十一年	一〇〇	一二〇	三七二、六二〇
昭和十年	一〇〇	一三〇	三七〇、六四五

(三) 會社

經濟機構の複雑化に伴ひ經營組織も個人經營より會社組織に變更されて行くことは當然の推移で近年當市の會社數も左表の通り年を逐ふて増加し一方拂込濟額の増加を示し堅實に發達しつゝある

イ、組織別會社數

年次	株式會社	合資會社	合名會社	計	拂込濟出資額
昭和十二年	三七	六二	七	一〇六	八、九六八、八五六
昭和十一年	三六	六四	六	一〇六	八、八五一、一〇六
昭和十年	四二	六五	六	一一三	七、九九一、一〇六
昭和九年	三七	六六	五	一〇八	六、〇〇七、九五六
昭和八年	三七	六〇	五	一〇二	五、四六五、七六〇

ロ、業種別會社數

業種	會社數	拂込濟資本額	業種	會社數	拂込濟資本金
農業	八	一〇二、〇〇〇	工業	一六	五、三七九、三五六
商業	八	九八八、七五〇	運輸業	一〇	二、四三九、二五〇
其他	四	五九、五〇〇	計	一〇六	八、九六八、八五六

ハ、資本別會社數

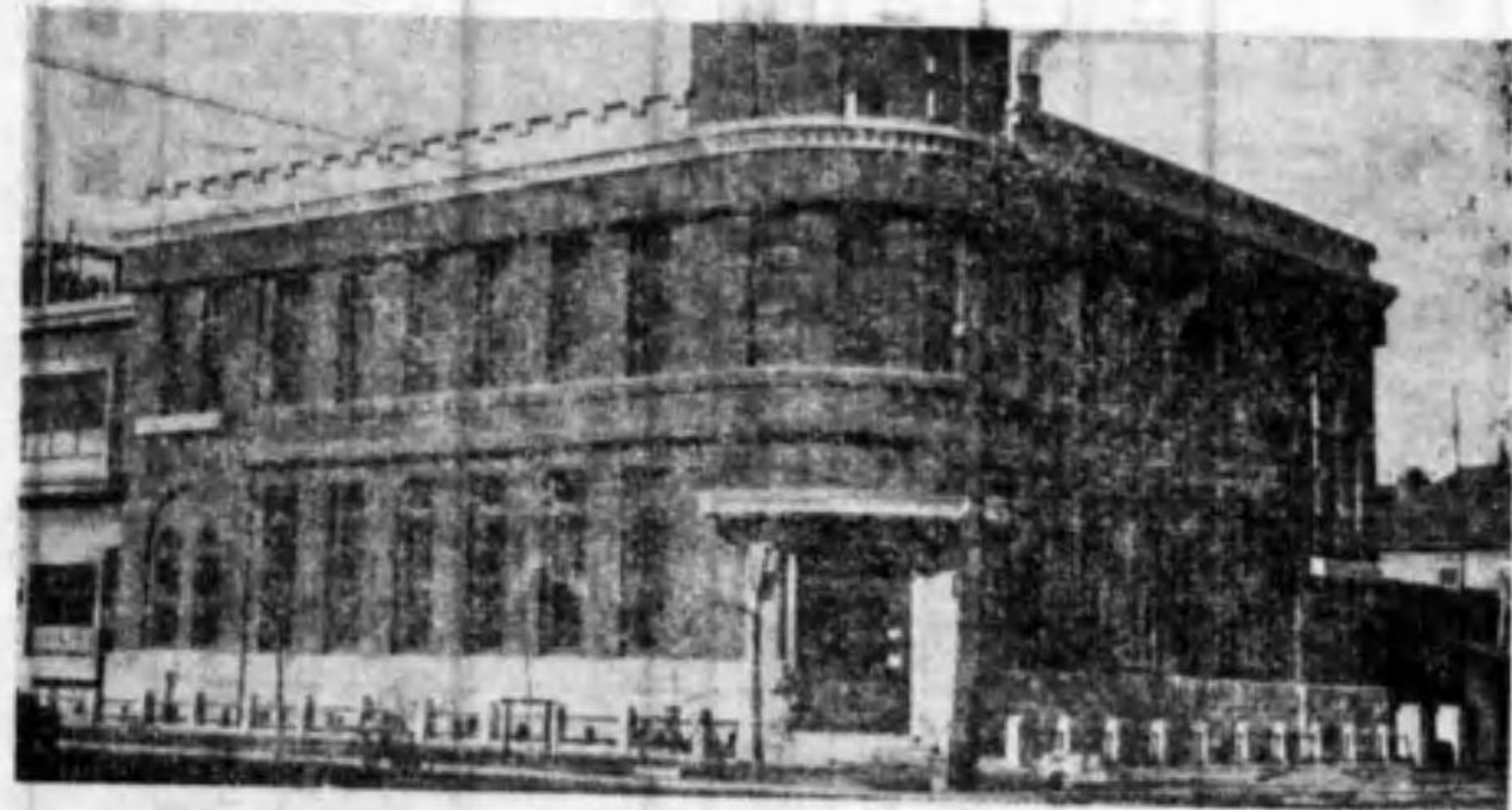
種別	未五千圓	五千圓以上	一萬圓以上	五萬圓以上	十萬圓以上	二十萬圓以上	三十萬圓以上	五十萬圓以上	計
株式會社	四〇	一六	一四	一七	二七	二	一	一	三七
合資會社	二	一	二	一	一	一	一	一	六二
合名會社	四	一〇	二九	一〇	九	二	一	一	七
計	四四	二七	四五	二七	三六	五	三	三	一〇六

(四) 金融

本市内金融機關の主なるものは特殊銀行支店一、普通銀行支店四、無盡會社本店一、同支店一、信用事業を行ふ産業組合二、公益質屋一、私營質屋一〇で其の金融状況を表示せば次の通である。

イ、帶廣市組合銀行營業概況

年次	定期	特別當座	當座	其ノ他	計
昭和十二年	七、三六八、三三三	二、九五四、三九三	一、五三一、八〇一	一、七六、九九〇	二、〇三二、五一五
昭和十一年	六、七七八、五二五	二、五〇七、四一八	一、三三三、六〇五	二、三、五五三、〇	五、六三三、〇九〇
昭和十年	五、八四六、二四〇	二、〇〇五、一八六	一、一七四、一七〇	三、一、一九四	九、一四六、七九〇
年次	貸付	當座貸越	割引	荷爲替	計
昭和十二年	七、〇九二、七五六	五、四九、八三三	三、三九四、〇七八	一、四九四、四三三	二、五三二、〇九九
昭和十一年	七、四七七、三四〇	五、三三、一六六	一、五一一、四一九	一、六三三、九二六	二、一五三、八一
昭和十年	七、六九一、三三三	四、三、四三三	一、四一一、七二五	一、一七〇、四二二	六、八五、八八九



北日本無盡株式會社

尙未だ手形交換所の設置を見ざるも昭和十二年中の交換高は四五、六〇九件二六、〇四七、八一〇圓に達して居る

ロ、無盡組合營業概況

年次	社數	組數	加入口數	無盡契約高	掛金受入高	無盡金支拂高	諸貸付額
昭和十二年	二	二	一九七	九、一八	六、〇五八、四〇〇	二、七四三、七九二	一、四七九、九〇〇
昭和十一年	二	二	二〇七	八、六三六	五、四七八、一〇〇	一、九三九、六三六	一、〇六二、七五三
昭和十年	二	二	一八八	七、八三五	五、一三三、六〇〇	一、四三六、五二六	九四六、二〇〇

ハ、信用事業を行ふ産業組合成績

年次	組合数	出資總額	運轉資金	貸出金	貯金
昭和十二年	二	二三〇、九五〇	六九二、六二二	四五二、七五二	五〇四、二〇二
昭和十一年	二	二一九、二〇〇	五五五、一五三	四四三、二〇六	三五六、四二二
昭和十年	二	一九五、三五〇	四七四、四七三	三七〇、二〇六	二八五、六三五

二、公益質屋

年次	貸出	受戻	流質	年末現在
昭和十二年	五六、四七一	五五、九四九	一、六〇五	一七、二四
昭和十一年	六七、〇八八	六七、四〇五	一、四四八	一九、七五一
昭和十年	七三、九六九	六九、〇五〇	一、八〇八	二一、四八二

木、質屋

年次	店数	貸出	受戻	流質	年末現在
昭和十二年	一〇	六四、一七三	五七、九六二	五、九九三	二七、八五〇
昭和十一年	一〇	五二、九八六	四七、六八九	二、六四九	二八、五〇〇
昭和十年	七	五五、七五一	四五、二九七	五、〇四七	三六、〇五二

ハ、金融機關一覽

名	稱	所	在
北海道拓殖銀行帶廣支店		帶廣市大通南七丁目二十番地	
株式會社安田銀行帶廣支店		帶廣市大通南九丁目二十番地	
株式會社北海道銀行帶廣支店		帶廣市西二條南八丁目十番地	
株式會社北門銀行帶廣支店		帶廣市大通南六丁目二十番地	
株式會社十二銀行帶廣支店		帶廣市大通南八丁目二十番地	
北日本無盡株式會社		帶廣市西一條南九丁目十九番地	
一力無盡株式會社帶廣支店		帶廣市大通南七丁目一番地	

尙本市の郵便局利用も年次増加して昭和十二年度中の成績は次の通りである。

年次	郵便貯金		郵便爲替		振替貯金	
	預入	拂戻	振出	拂渡	拂込	拂出
昭和十二年	一、五五三、三六三	一、三八三、六四四	一、三〇三、〇四三	一、五二五、四四三	一、二二五、一六二	二九五、三〇一
昭和十一年	一、二七五、〇九五	一、一九三、二五九	一、〇七〇、七二八	一、〇九八、九七一	一、一七、九二四	三二四、六五四
昭和十年	一、三三八、一三七	一、二二一、七七八	九〇三、七四三	一、〇三八、三三二	一、〇八八、五七三	二九二、〇三三

(五) 倉庫

本市の營業倉庫は大正物産株式會社、帶廣倉庫株式會社、南十勝振興會の經營に係るもので棟數

一一、建坪九六七坪を有し、外に各産業組合經營に係る倉庫五棟四三一坪を有して居る。此等倉庫の主なる取扱品は米雜穀類、肥料、薬工品等である。

### 七、交通運輸

産業と交通運輸の關係は車の兩輪の如く兩々相俟つて互に離れることの出来ぬ密接な關係にあるものであるが當市は地の利を得て夙に鐵道四通發達し自動車網又完備して居る。

#### (一) 鐵道

根室線は市の中央部を貫通し、省線士幌線及廣尾線は帶廣驛を始點として前者は糠平に後者は漁港廣尾港に至り（將來日高國を横斷し室蘭港に連絡）十勝國を南北に縦斷して居る私鐵十勝鐵道亦帶廣驛より出で、南十勝地方の物資の運搬を行つて居る。

當市には帶廣驛、伏古驛、私鐵大通驛、女學校前驛の四驛あり、近く運輸事務所及保線事務所が設置される哉に聞えて居る。

#### (二) 自動車

十勝平野は地勢平坦な爲め本市を中心として自動車運輸は早くより發達し十勝平野各地に乗合自動車の便あり、且定期、不定期の貨物自動車の利用は最近激増して附近農村への物資の供給は殆んど之に依る状態である。

### 八、産業團體

#### (一) 商工會

帶廣商工會は大正十五年一月當時の帶廣町を地區として道廳令商工會規則に依り設立せられ現在會員數一千二百名を算し目下商工會議所設立手續中で今年中に其の實現を見る筈である。其の事業に就ては部會制を設けて商工會議所に準じて行ひつゝあり更に於て建築中の商工獎勵館を建設する等活潑なる活動をなして居る

會名	所	在	代表者
帶廣商工會	帶廣市西三條南六丁目		伊谷半三郎



(二) 農 會

帶廣市農會は大正四年當時の帶廣町一圓を地區として設立せられたもので現在會員一、二〇〇名を算し、技師一名技手一名を常置して、一般農事指導、農事共勵會、品評會の開催、講習、講話會の開催、農産物の販賣斡旋等の事業を行つて居る。

會 名	所	在	代 表 者
帶 廣 市 農 會	帶廣市西三條南八丁目	高 倉 定 助	

(三) 畜 産 組 合

畜産王國十勝を代表する機關として十勝畜産組合と十勝緬羊畜産組合がある、後者は設立後未だ日浅く目下組合基礎の確立に努力中であるが前者は明治三十九年四月の設立にして組合員數二萬名牛馬の増殖改良に貢献する所多く昭和十一年 長くも侍從御差遣の光榮に浴した優良組合である。

組 合 名	所	在	職 員 數	代 表 者
十 勝 畜 産 組 合	帶廣市西三條南九丁目	三	奥 野 小 四 郎	
十 勝 緬 羊 畜 産 組 合	十 勝 支 廳 内	五	北 村 奥 松	



(四) 家 畜 保 險 組 合

十勝家畜保險組合は昭和七年六月設立認可せられたもので未だ日浅きに不拘組合員數四、三七五名、加入牛馬頭數六、八〇〇頭に上り其の成績優秀である。

組 合 名	所	在	職 員 數	代 表 者
十 勝 家 畜 保 險 組 合	帶廣市西三條南九丁目	五	奥 野 小 四 郎	

(五) 重 要 物 産 同 業 組 合

大正二年北海道東部米雜穀商同業組合設立せられ移出雜穀の検査を主たる事業として居たが、農産物検査の道營移管に伴ひ現在米雜穀取扱品の改善整理、取引改善等の事業を行ひ善く十勝産雜穀

の廉價を維持して居る。

十勝木炭同業組合は大正十四年設立せられ、生産品の検査を主たる事業とし一箇年検査數量一千万貫に達して居る。

組 合 名	所 在 地 區	代 表 者
北海道東部米雜穀同業組合	帶廣市東三條南十丁目 帶廣市、釧路市、十勝、釧路、根室、網走支廳管内	清原次平
十勝木炭同業組合	帶廣市西三條南八丁目 帶廣市及十勝支廳管内	北村奥松

(六) 商業組合

昭和七年商業組合法の發布を見、商業者の組織する經濟團體として法人の資格を認めらるゝに至つたので本市に於ては昭和九年藥種、化粧品商業組合の設立せられたのを初めとして順次左の四組合の設立を見、目下手續中のものに靴類小賣商業組合吳服洋太物商業組合があり何れも業績良好である。其の事業を見るに帶廣藥種賣藥化粧品商業組合は共同購入、統制事業、十勝木炭移出商業組合は共同販賣事業を主とし、帶廣雜穀移出商業組合は從來共同販賣、統制事業を主として居たが

昭和十一年度に於て商工省より補助金の交付を受け貨物自動車を購入し運搬事業を開始するに至り帶廣米穀小賣商業組合は共同購入事業に依つて好成绩を収めて居る。

組 合 名	所 在 地 區	出 資 總 額	代 表 者
帶廣藥種賣藥化粧品商業組合	帶廣市大通南九丁目 帶廣市一圓	五、〇〇〇	黒澤武三郎
十勝木炭移出商業組合	帶廣市西三條南八丁目 帶廣市及十勝支廳管内一圓	一五、〇〇〇	梶野宗五郎
帶廣雜穀移出商業組合	帶廣市東三條南十丁目 帶廣市一圓	三〇、〇〇〇	栗山伊三郎
帶廣米穀小賣商業組合	帶廣市西一條南七丁目 帶廣市一圓	一〇、〇〇〇	西佐古寅市

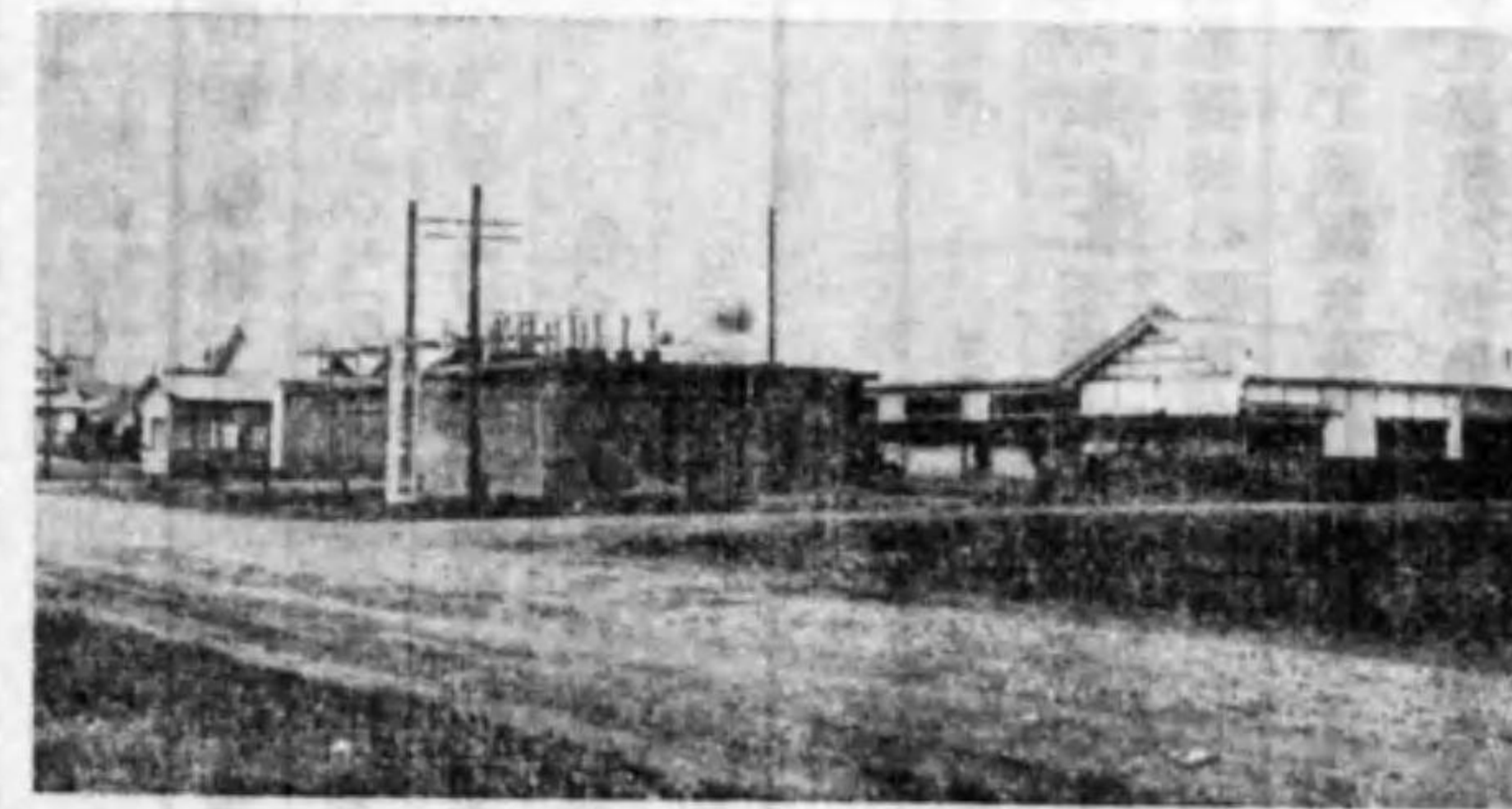
(七) 工業組合

本市は元來四圍の農村を背景として發達し來つた都會で工業は一般的に不振の状態を辿つて來たが近年前掲の如く著しく勃興し來り殊に最近我國に於ける中小工業振興の聲に刺激され、昭和九年印刷、家具建具の兩組合が組織せられ更に昭和十二年鐵工機械器具工業組合及疊工業組合昭和十三年には鐵製品工業組合設立認可せられ、申請中のものに靴、疊の工業組合がある、既設組合の事業の狀況を見るに保證責任帶廣家具建具工業組合は共同販賣場、共同材料置場を設けて共同購入、共

同販賣事業を行つて來たが北海道廳の補助を受けて共同加工場  
 (材料燻煙乾燥、小割加工)塗裝設備を建築し大量取引に依り  
 軍部方面の發註を受け更に大陸に進出すべく計畫中である。  
 保證責任十勝印刷工業組合は材料の共同購入、共同受註事業を  
 主として居る。

保證責任帶廣鐵工機械器具工業組合は主として農具機械製造業  
 者の組織した工業組合で滿洲國へ農具の大量輸出を計畫しつゝ  
 あつたが時局に依り鐵鋼の配給統制實施せられたるに依り漸次  
 各下請品製作に轉換し、昭和十三年度商工省補助も決定し目下  
 共同加工場建築中である。

帶廣鐵製品工業組合は鐵鋼配給を目的として薄鋼板加工業者を  
 主として設立されたものであるが制限された材料を最も有効に  
 使用し、且經營の合理化を圖る爲業者大同團結共同作業場に集  
 合して共同經營を爲し、目下下請製作に漸次轉向しつゝあるも



場工加同共台組業工具建具家廣帶任責證保

のである、保證責任帶廣疊工業組合は共同購入共同販賣に依り堅實に發展しつゝある組合である。

組 合 名	所 在 地 區	出 資 總 額	代 表 者
保證責任帶廣家 具建具工業組合	帶廣市大通南八丁目 帶廣市一圓	10,000	藤田梁次郎
保證責任十勝印 刷工業組合	帶廣市西三條南十丁目 帶廣市及十勝支廳 管内一圓	10,000	中山彌三郎
保證責任帶廣鐵工機 械器具工業組合	帶廣市西二條南六丁目 帶廣市一圓	13,000	高橋丑松
保證責任帶廣疊 工業組合	帶廣市西一條南十一丁 帶廣市一圓	5,000	松原泰治
帶廣鐵製品工業組合	帶廣市大通南七丁目 帶廣市一圓	1,000	江口芳作

(八) 酒 造 組 合

十勝酒造組合は明治四十四年設立せられたるものにして酒類釀造技術の改良發達を計り營業上の  
 弊害を矯正する等斯業の發展に努力して居る。

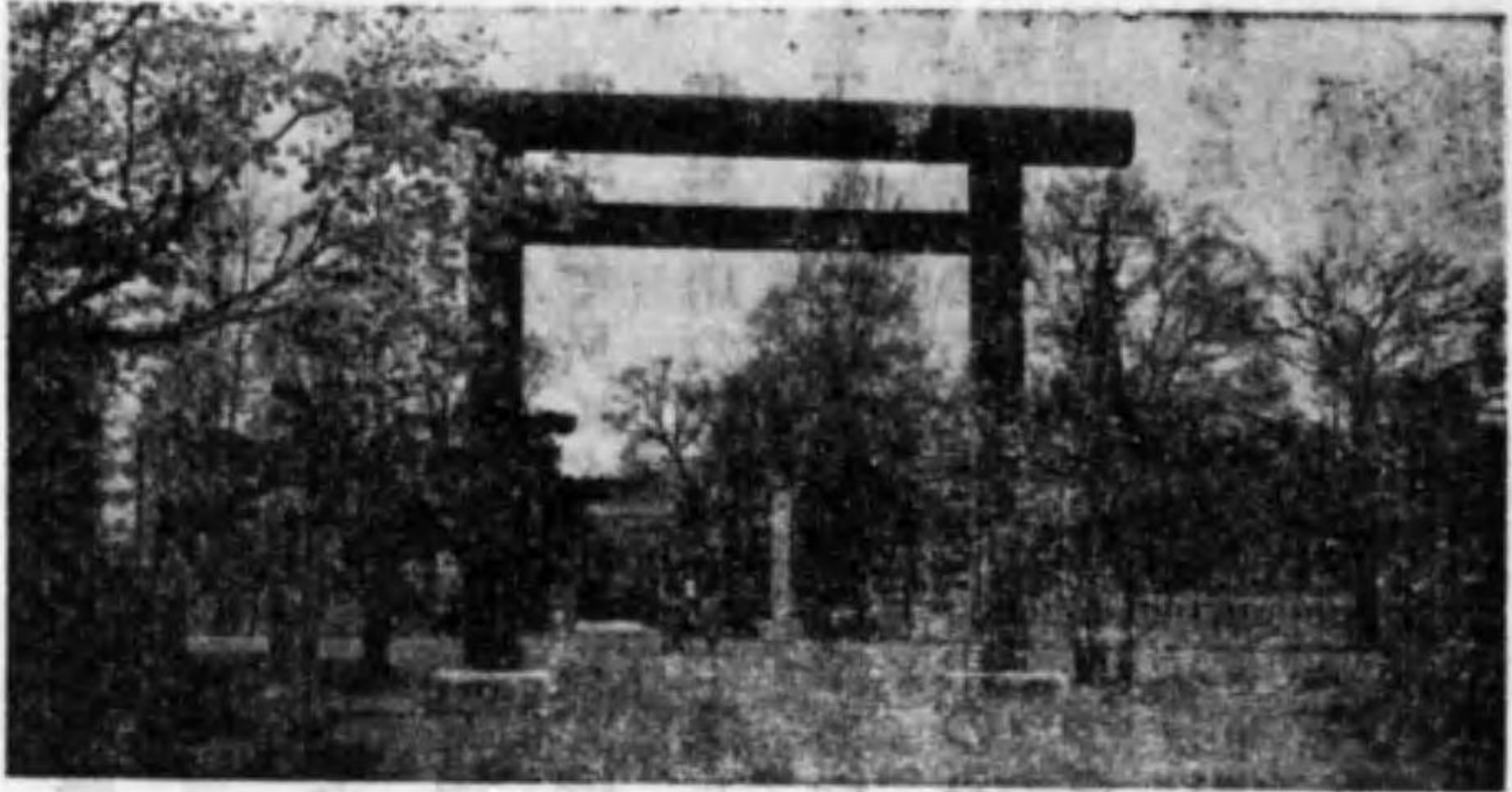
組 合 名	所 在 地 區	代 表 者
十勝酒造組合	帶廣市東二條南九丁目 帶廣市及 十勝支廳管内一圓	山本外次郎

(九) 産業組合

本市の産業組合は左の三組合であるが何れも特殊な必要に依つて組織せられたもので業績良好である。帯廣信用組合は産業組合法第一條第四項に依る所謂市街地信用組合であつて拂込済出資金は一四三、八九〇圓であるが貯金四九五、九二九圓、貸付金四三八、〇〇三圓に達し市民の簡易金融機關として堅實に發展しつゝあり、帯廣信用購買販賣利用組合は主として酪農家を以て組織せられ牛乳の販賣、飼料肥料及日用品の購買事業を主として居るが一方信用、利用の事業に就ても着々成績を上げつゝあり、北糖購買組合は北海道製糖株式會社、社員並に従業員の日用品の購買組合である。

組 合 名	所 在	出 資 總 額	代 表 者
帶 廣 信 用 組 合	帶廣市西三條南八丁目	三五、五五〇 <small>円</small>	上 德 善 七
帶廣信用購買販賣利用組合	帶廣市西八條南九丁目	一五、四〇〇	諏 訪 正 種
北 糖 購 買 組 合	帶廣市東三條南十丁目	一、四八五	眞 鍋 廣

附 録



縣社廣帶神社

## 一、市内案内

**縣社帶廣神社** 市の總鎮守であつて、市の東北清流帶廣川に望み、大國魂神、大己貴神、少彥名神の三柱を祀つてある。

尙神社の東隣接地に招魂社ありて當地出身の護國の英靈を祀り之に附屬する招魂社グラウンドは一般市民に開放され盛んに利用されて居る。

**水光園** 市の東北端で晚成合資會社の一行が始めて本市に居をトしたるは此の附近である。即ち本市濫觴の地で、規模大ならざるも園内櫻樹外く泉池又雅致に富む、現在之を小公園として市民の遊樂地となつて居る。

**チヨマト古戰場** 驛を距る約一里、周圍二十五町の小沼であつて往時十勝、日高兩國のアイヌが此の沼を挟みて闘ひ双方死者夥しく死屍壘々として爲に沼の水赤しと古老の口碑に遺

つて居る。

尙チョマートとはアイヌ語で悪靈潜むの意で附近には約五十戸の舊土人部落がある。

松浦判官詠歌の碑 市の北方、東北海道第一の十勝川に架された延長二百米の河西橋を過ぐれば鈴蘭公園に至る、園内鈴蘭密生して夙に名がある、蜓々として銀蛇の如くめぐる十勝、音更兩川の清流を隔て遠く日高の國境を望み、帯廣全市を眼下に收め得る景勝地であつて、松浦判官詠歌の碑がある。

此のあたり馬の車のみつぎもの

御藏を建て、つま、欲しけれ

緑ヶ丘公園 本園は市の西南部總面積三十四万九千七百三十五坪を有し昭和四年以來着々公園施設を進めつゝあるもので、後方の高丘には櫻榴を植樹し、自然林中に逍遙道路を設け、數年後には前面の廣場に野球場、競技場、水泳場及スキー場



地 遙 道 川 廣 帯

の綜合グラウンドも完成し模範的公園となる筈であり、隣接地に飛行機着陸場がある。

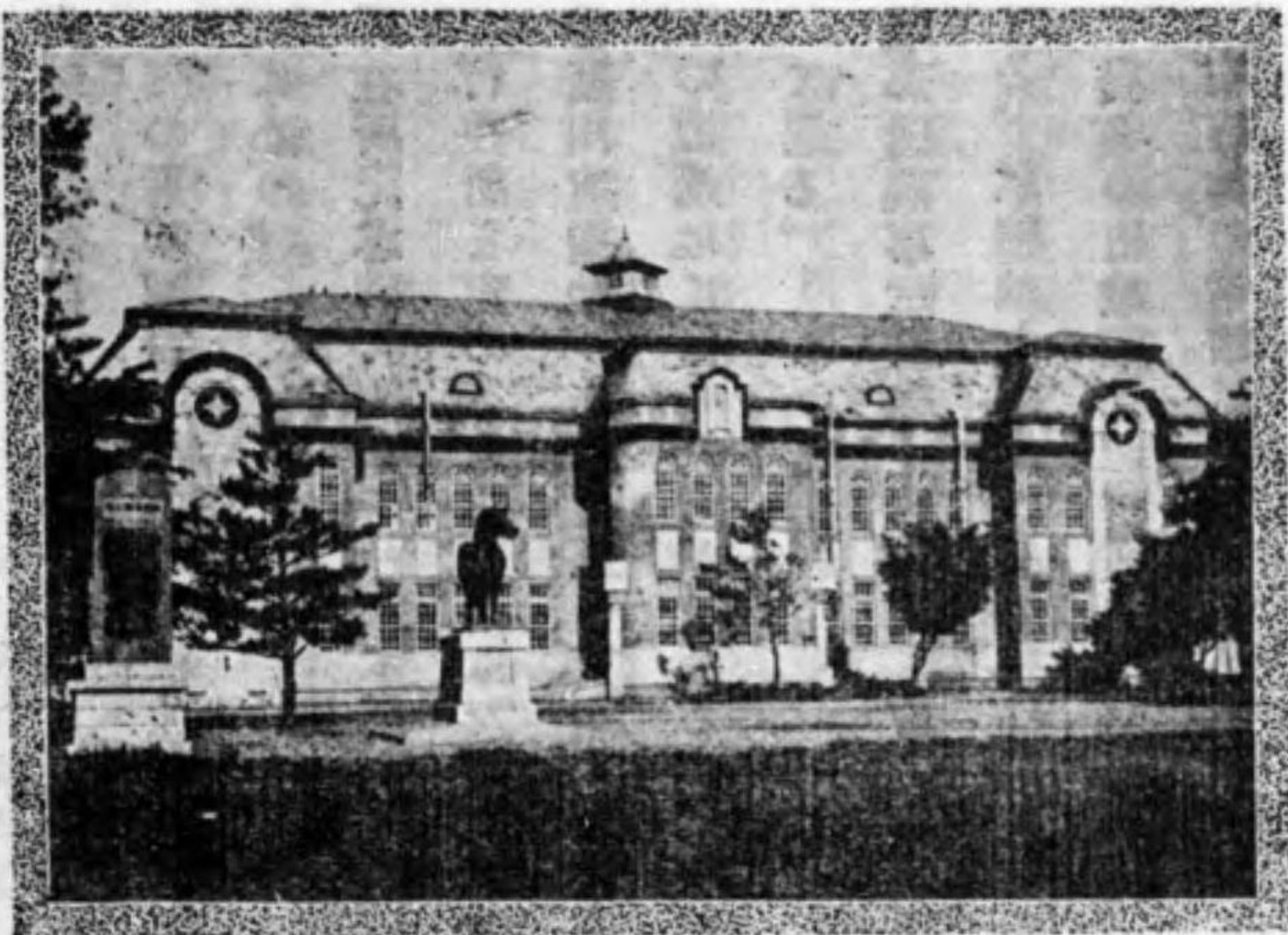
御親閲記念碑 昭和十一年九月二十九日 本市 行幸の砌り緑ヶ丘公園隣接飛行場に於て東北海道二萬の青年團員並に中等學校生徒を御親閲遊さされし光榮を記念して建設したもので緑ヶ丘公園内にあり。

行在所記念碑 昭和十一年本道を御巡幸の砌り本市に鳳輦を止めさせられ給ひ、明星尋常小學校を行在所と定めさせられ給ふた無上の光榮を記念し同校校庭に建立したものである。

帯廣川逍遙地 市の北部を貫流する帯廣川岸に間知石積を施し、河畔には芝生、櫻樹を配して市民の逍遙地に當てたものであるが、清流に綠影を浮べて風致よく、兒童遊戯場を設けて小公園として居る。

北海道農事試験場十勝支場 市の東端驛を距る十八町十勝、釧路二國の農事試験業務を監督して居る、試験地七町歩、模範耕作地九町歩、種圃五町歩を經營し病蟲害、糖業、養蠶に關する試験、農業の組織經營、耕種、肥培の研究、重要農作物の模範耕作、品種の改良、優良種卵、種苗の配布等其の業績見るものが多い。

帯廣競馬場 市の西部には十勝畜産組合が數萬圓を投じて設けた、競馬場、家畜市場、産馬共進會



十勝會館

場の総合的設備がある、帯廣競馬は春秋二回開催せられ、競馬場内諸般の設備の完備して居る點では全國地方競馬場中隨一であり、出走頭數の多いこと、全國に冠たる十勝速歩馬の登龍門として有名である

**十勝公會堂及十勝會館** 十勝公會堂は明治四十四年大正天皇東宮にあらせられし際行啓あり、十勝國民は御座所に當て奉らむ爲工費二萬餘圓を投じて竣工し無事鶴駕を迎へたのである。超えて大正十一年七月當時東宮におはせし 今上陛下行啓あり同じく御便殿に於て御晝餐を聞召られ、當時御使用の御椅子御帽子掛を保存し奉つて居る。

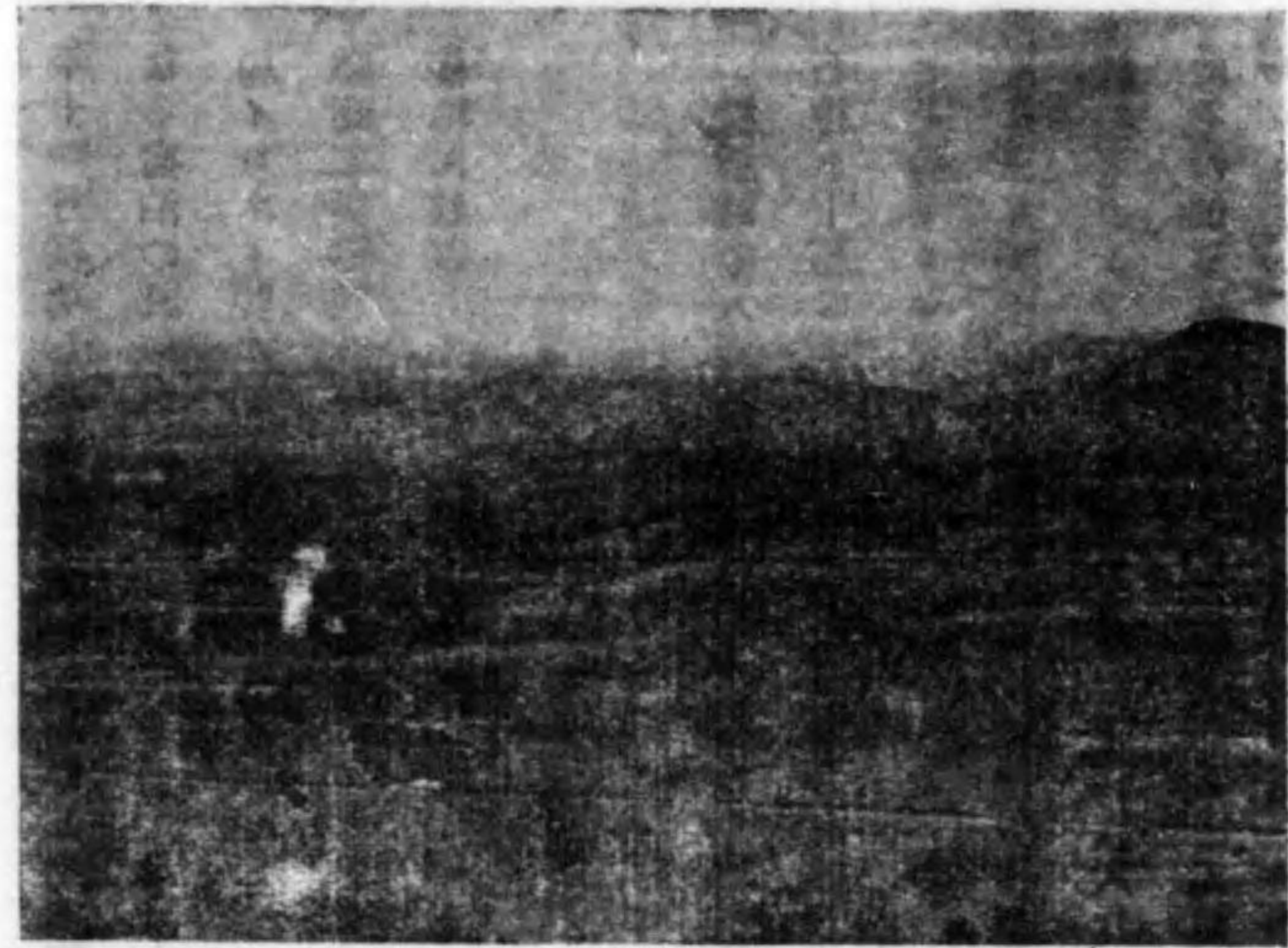
**十勝會館**は 今上陛下御即位の大典を記念すべく十勝國內の在郷軍人、青年團、各種公共團體、その他一般有志の寄附に依り總工費五萬餘圓を投じ昭和四

年十一月竣工したもので總坪數四百八十六坪五合總二階建て階上には大講堂を有し階下には簡易なる宿泊の設備があつて講演其他大小集會に使用せられ、前庭には高倉安次郎氏の頌徳像及名馬イレネー號の銅像がある。

**十勝商工獎勵館** 昭和十一年當市に行幸あらせられたるを記念し帯廣商工會に於て十勝公會堂の隣接地に建設したもので十勝國內の諸物産を一堂に蒐め産業十勝の縮圖とも稱すべきものである。

## 二、近郊の名所案内

(一) **狩勝峠の大展望** 落合驛を發した列車が狩勝信號所(海拔五三二米)のスキッチバックを経て石狩と十勝の國境をなすトンネル(海拔五三六米、延長九一七米)を出た瞬間展開される大展望こそ曾てロイテル通信員エツチ・シー・マンテー氏をして北米のロッキー、東歐のウラルと並び世界三大展望の一と讃嘆せしめた狩勝峠の大展望である。汽車は約四十分の一の勾配をなす環狀線の大カーブを快走し、急轉直下、廣大なる十勝平野に向つて下るが其の間數多の屈曲を経る毎にその展望は右に移り左に轉じ雄大と云はうか豪壯と云はうか其の風光は曩の國定教科書卷十一中の一文中に依り遺憾なく描寫されて居る。



(一の其) 望展大の峠勝狩

明治四十四年、大正十一年の兩度 皇太子  
殿下本道御巡啓の際 長くも鶴駕を駐めさ  
せられ親しく御展望あらせられしと洩れ承  
る。

昭和六年自動車道路開鑿せられ其の展望は  
車窓の比でなく特に黎明彩雲の下茫洋とし  
て連る大平原の風光に接するべく訪れる者  
連年多きを加ふるに至つた。

(二) 大雪山國立公園 大雪山國立公園の地域  
は十勝國に於て其の七割を占め、狩勝國境  
線に連る山岳地帯と然別湖、糠平温泉を中  
心とする湖沼温泉地帯に分つことが出来る  
然 別 湖 然別湖は海拔二千六百尺の  
高所にある神秘的仙境である。坦々たる十



(二の其) 望展大の峠勝狩

勝平野を快走して牧歌的情緒豊かな緬羊ヶ  
丘の草原を過ぎる頃より途は次第に登りと  
なり風景至つて開豁、扇ヶ原に達すれば頭  
上に夫婦ヌブカウシ山聳え、其の展望は十  
勝平野を越えて遠く大平洋に及び狩勝峠に  
優るとも稱せらる。扇ヶ原の草原を過ぎる  
頃より針濶混淆の密林地帯となり、姫石楠  
花、フレツブ、りんどう等の高山植物繁茂  
し、特に晩春の躑躅、石楠花、秋の紅葉は  
目覺むるばかりの美觀を呈し、岩穴の鳴鬼  
も珍らしく興を添へる。湖は密林に圍まれ  
て樹影深く湖面に倒影し神秘的な静寂境、  
湖中にイワナ、山椒魚、サリガニが棲息し  
て居る。サリガニは本道獨得のものであり



イワナは昭和十一年夏斯界の權威者大島博士に依り從來の日本産イワナとは別種類のものであることが発見され、ミヤベイワナと命名された學界の珍である。

温泉旅館 光風館、山田温泉 (宿泊料一圓—二圓五十錢)

自動車 乗合 帶廣より (片道一圓五十錢 往復三圓)

貸切 帶廣より (十圓八十錢)

貸切 大型バス帶廣より (一日 三十圓)

**糠平温泉** 溪流と針葉樹の原始林に圍まれ西方遙にニベツツ山を望む幽邃境である。然別湖畔よりの林間歩道はハイキングコースとして杖を曳く者多く、温泉は無色透明の鹽類泉である。

温泉旅館 糠平館、瀧の湯館 (宿泊料一圓五十錢 福島屋其の他)

(糠平驛より十五丁)

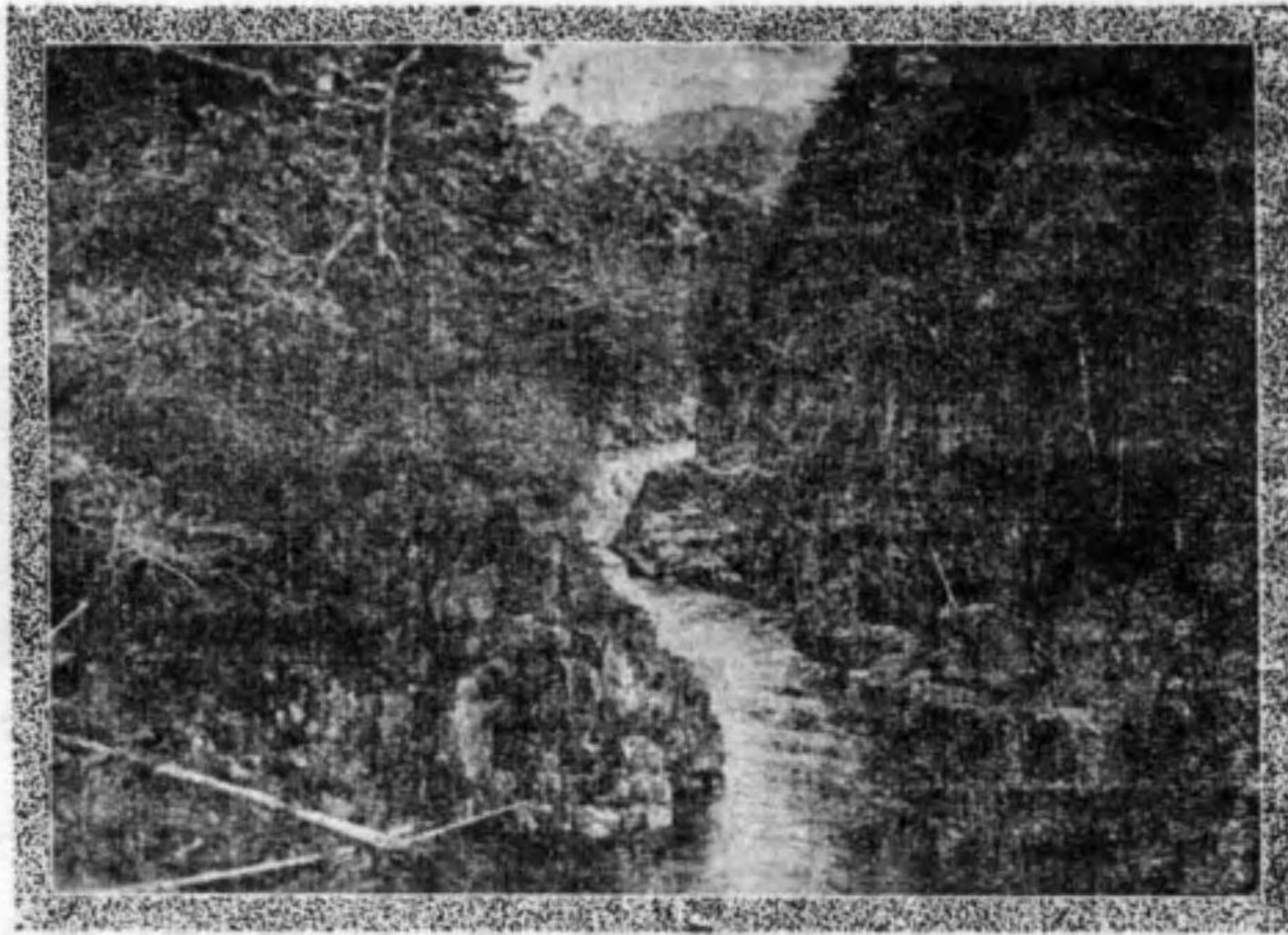
自動車 乗合 帶廣より (片道一圓五十錢 往復二圓)

貸切 帶廣より (十圓八十錢)

貸切 大型バス帶廣より (一日 三十圓)



然 別 湖



仙

翠

溪

**仙翠溪** 帶廣から糠平温泉を訪れる途中音更川の上流仙翠橋より糠平温泉まで約三里の間鬱蒼たる原始林中を奔流する溪流であつて、或は瀧となり、淵となり、巨巖怪石配置の妙仙境の名に背かぬものがある。溪谷中屏風岩、大函、小函、弓ヶ瀬、猿飛岩龍門の瀧の風景が特に著名で龍門の瀧は遡上期に鱒の群がこの瀧を跳躍すること盛んで一名鱒見の瀧とも謂ふ。

**ニベツツ岳** ニベツツ岳は標高二、〇一二米、大雪山

国立公園の南東に於ける雄峰で男性的な山容を屹立して多くの山岳愛好家の憧憬の的となつて居る。殊に八合目のお花畑「大平」からの頂嶺への瘦尾根はニベツツの持つ大きな誇りである。

**トムラウシ岳** 標高二、一四一米、動んだ大火山岩の

累積のみで造られた鋭い圭角を持つ男性的峻嶺で石狩岳との間標高一、四六〇米附近の廣潤な臺地には大小無数の沼が清冽を湛えて「沼の原」と稱せられ沼の原の北西のお花畑「五色ヶ原」と共に印象的な山の風景を展開する。

**熔岩塔** トムラウシ岳に發するトムラウシ川を遡上し山麓に達すると千古の歴史を物語るかの如く佇立する熔岩塔は噴出した硫黄の結晶體で直徑二尺、高さ五尺餘尖端より熱湯を噴出し世界に其の例稀で學界の好資料たるを失はぬ。

(三) **十勝川温泉** 市の郊外約二里十勝川に臨んだ景勝地で湯質は單純泉で温度四五度、自動車で約十分。

温泉旅館 帶廣ホテル、竹屋 越後屋、笹井旅館(宿泊料一圓五十錢—三圓五十錢)  
 カフェー 十勝川會館  
 自動車 乗合 帶廣より  
 貨切 帶廣より  
 貨切 大型バス  
 (片道三十錢)  
 (往復六十錢)  
 (二圓五十錢)  
 (片道六圓)



塔 岩 熔



泉 温 川 勝 十

(四) **十勝農業學校** 市外川西村字稻田に在り、驛より約二里、本道農業に即した特異な經營法に於て名あり、附屬實習地約

百二十町歩、昭和十一年 行幸の光榮に浴す。

自動車 貨切 帶廣より (一圓五十錢)  
 貨切 大型バス (片道四圓)

(五) **拓殖實習場** 北海道開拓の雄志に燃ゆる志操剛健の青年を

收容して晴耕雨讀、拓殖の眞精神を體得せしむる爲に設られた本場は既に第五回の修了者を出し所期以上の好成績を収めて居る。本場は大樹村にあり昭和十一年 行幸の光榮に浴す

自動車 乗合 帶廣より (片道九十錢)  
 貨切 帶廣より (片道九圓)  
 貨切 大型バス (往復十圓八十錢)  
 (半日十八圓)

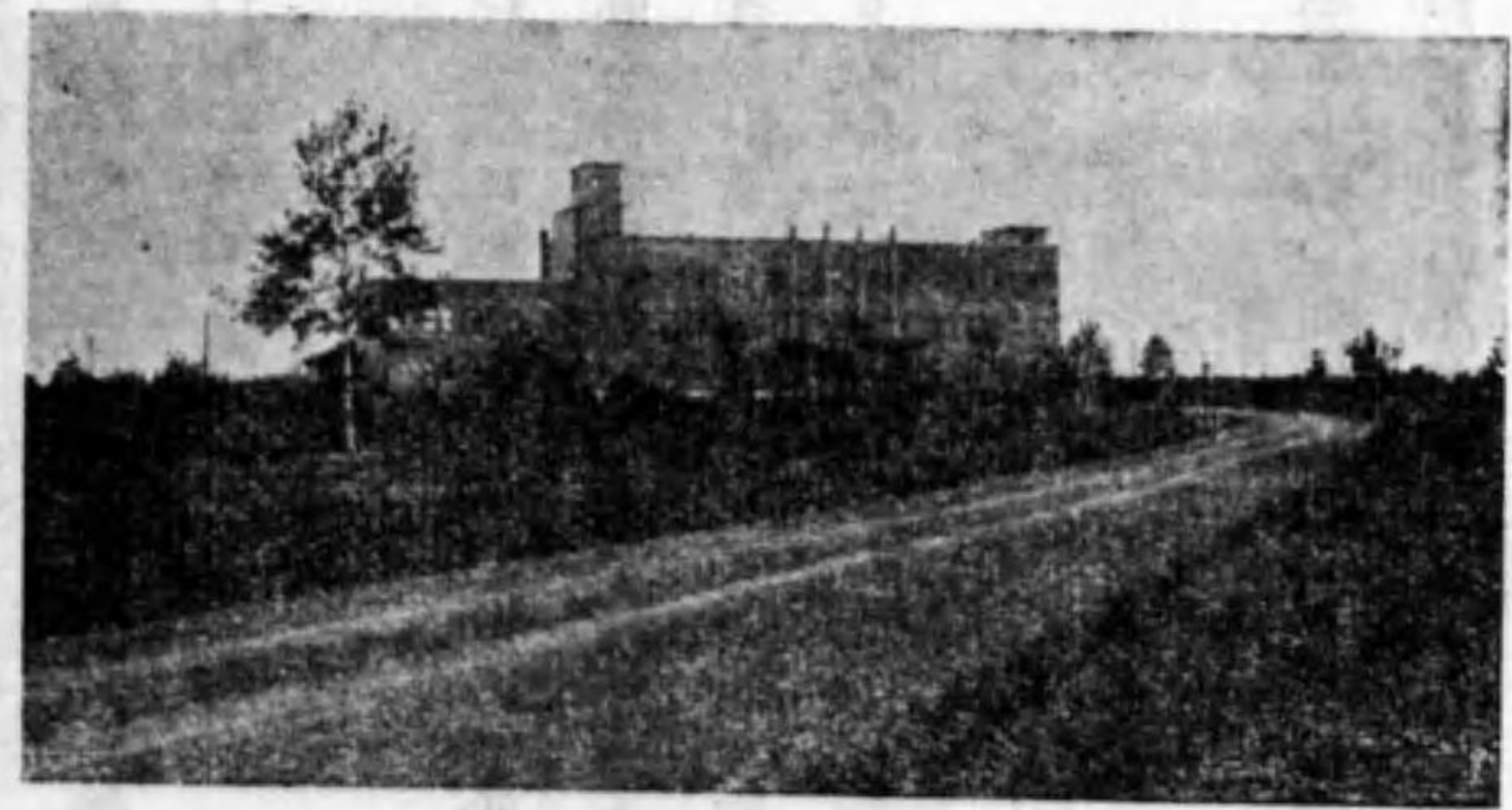
(六) **拓北部落** 拓殖實習場を去る十町、同場第一回の修了者が

集團入地して開拓した二十戸足らずの小部落であるが昭和十一年地方行幸の砌本道拓殖開發の大御心により豪雨中親しく

鳳輦を進めさせられ給ふた光榮の地である。

自動車 貸切 帶廣より (八圓七十錢)  
貸切 大型バス (二十圓)

(七) 日勝道路 廣尾線又は乗合自動車の便に依つて廣尾に至れば安政六年仙臺藩領時代の陣屋跡の土壘によつて蝦夷地開拓の昔を偲び、郷社十勝神社は寛政年間松前藩士蠣崎藏人の創建にかゝるもので社寶として幕吏近藤重藏が寛政十年江戸猶軒使として擇捉島よりの歸途此の地に入り日勝海岸路の嶮に惱みルベシベツより日高國境ビタヌンケに至る約三里の道路を開鑿した記功碑を蔵して居る。現在では日高國まで海岸六里の間に八年の歲月と二十餘名の人柱によつて海岸道路完成し俗に黄金道路と稱し(工費の莫大なりしより謂ふ)果なき大平洋の怒濤、斷崖に激し景観頗る豪壯、特に近藤重藏氏の道路開鑿記に記されてある海岸嶮難の箇所は右は斷崖絶壁



十勝農業學校

左は怒濤岩礁を洗ふところ九個のトンネル穿つて豪快なドライブコースである。

自動車 乗合 帶廣より (一圓五十錢)  
貸切 帶廣より (十圓)  
貸切 大型バス (一日三十圓)

(八) 十勝種馬所 産馬王國十勝の總元締とも謂ふべき十勝種馬所は明治四十三年の創設されたもので市外音更村字駒場にある。繋養種牡馬二百數十頭。附屬農場はトラクター其の他極度に機械力を應用して居る點で有名である。

自動車 乗合 帶廣より (四圓)  
貸切 帶廣より (三圓)  
貸切 大型バス (片道八圓)

(九) シュブサラの址砦 市外芽室村字西士狩字シュブサラにある。南方に突出した丘陵の一端を占め、楕圓形で周圍に空壕を繞らし更に北と東とに各々分派した空壕を有して居る。前面に平野展開し近く十勝川を俯瞰する箇所で當地舊土人はこの砦が諸砦中最も堅牢であつたと傳へて居る。

(十) 阿寒國立公園 山岳、温泉、湖沼の配置に妙を得た美景阿寒國立公園は從來釧路より探勝するを唯一の順路とされて居たが、大雪山國立公園と併せて最も短時間に之を探勝するには先づ帶廣

を出発点とするを便利とする、即ち本市より西足寄を経て雌阿寒山麓に出で阿寒湖畔に至る。行程は僅に四時間であり、釧路經由に比し實に十餘時間の時間を短縮し得るもので更に横断道路により弟子屈に出で（釧網線に連絡）摩周湖、川湯、屈斜路湖、和琴、美幌峠を觀賞することが出来る即ち「阿寒への近道」として推稱する所以である。

自動車 貸切	帶廣より阿寒湖迄	(片道二十二圓)
貨切	大型バス 一日	(往復二十五圓)
貨切	阿寒湖、横断道路、弟子屈	(七十五圓)
貨切	摩周湖、川湯、和琴、屈斜路湖	(一泊二日四十七圓)
貨切	美幌峠一週	(一泊二日百二十圓)

### 三、土産品

**甜菜糖** 甜菜(ビート)より製する白砂糖で本道獨特のもの、年産七百萬圓、サラ／＼した淡白な味と氣の利いた包装によつて土産品として珍重されて居ります。副産品バンドミンは營養劑胃腸藥として旅には離すことの出来ぬものでせう……五十五錢より各種

**十勝石細工** 濡れた様な漆黒の色澤を愛でられる黒耀石は清純な乙女の瞳に譬へられて詩に歌に唄はれて居りますが、帶廣を中心とする十勝川流域に産するもので十勝石と稱せられ瑪瑙と竝んで道産寶石の双壁です。カフスポタン、帶止、硯、風鎮、達磨其の他置物等……一圓位より各種

**鈴蘭香水** 鈴蘭は幸多き北國の象徴として餘りにも有名です。香水の中に可憐な花の姿を泛べて旅のよき慰となり思出となるでせう……三十錢より各種

**木肌細工** 白樺「しころ」等特有の樹の加工品で野趣満々。菓子器、茶器、壁掛等があります……二十五錢より各種

**菓子** 穀物、砂糖、ミルク、バター等の生産地であり「乳と蜜の流るゝ國」はそのまゝ十勝の姿です。原料に恵まれた此の地より旅の方々へ贈る土産品としての菓子は……十勝豆、十勝小豆焼、五色甘納豆、落砂糖漬、ビート餅、ビート羊羹、ビートバター飴、十勝小唄煎餅、志ら雪、くるみ餅、新駒餅、はじけ豆等……何れも郷土色豊かなものです。

**山葵** 漬 市の西端つゝし澤の湧水地に四百坪の山葵田を造成し、新に特産品として世に出た山葵漬は新鮮な香氣を放つて旅を偲ぶすがとなりませう。

14.2  
125

五、官 公 衙

官 廳 名	所 在	官 廳 名	所 在
帶廣測候所	東五條南九丁目	十勝支廳	東六條南九丁目
帶廣郵便局	西二條南八丁目	北海道農事試驗場十勝支場	東十一條南十丁目
帶廣稅務署	西一條南二丁目	帶廣區裁判所	西三條南九丁目
帶廣土木事務所	西四條南八丁目	釧路保線事務所帶廣保線區	驛構内
帶廣驛	西二條南十二丁目	帶廣營林區署	西三條南七丁目
伏古驛	伏古市街	帶廣治水事務所	西四條南六丁目
北海道農產物検査所帶廣支所	東二條南十二丁目	帶廣市役所	西三條南八丁目
札幌逓信局工務課帶廣出張所	西二條南八丁目	帶廣西二條郵便局	西二條南三丁目
伏古郵便局	伏古市街	帶廣東二條郵便局	東二條南五丁目
帶廣大通郵便局	大通南十二丁目	網走刑務所帶廣支所	番外地
帶廣鐵南郵便局	大通南十七丁目	札幌專賣局帶廣出張所	大通南五丁目
帶廣警察署	西三條南七丁目		

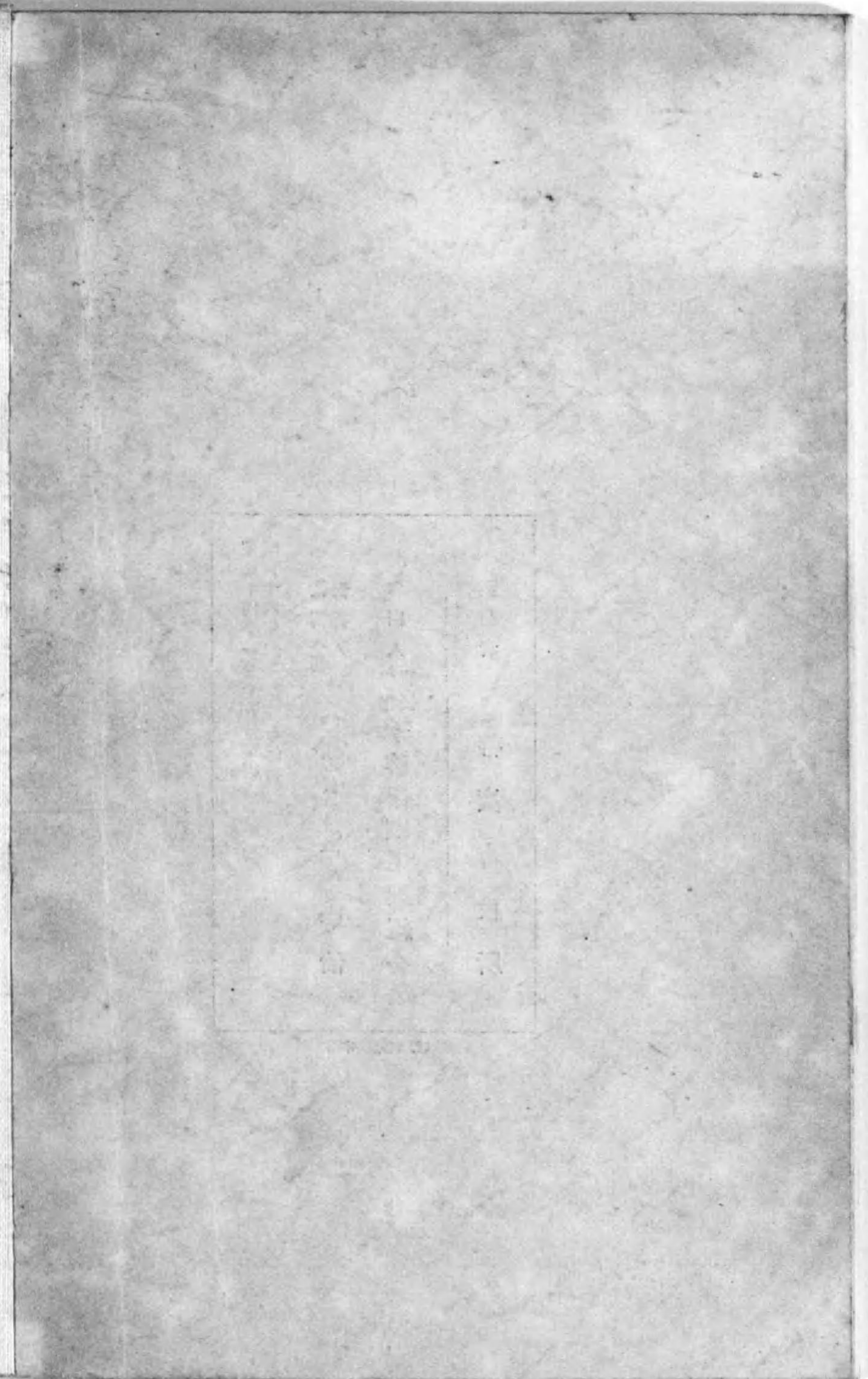
昭和十四年一月十五日印刷  
昭和十四年二月十日發行  
(非賣品)

編輯兼 帶廣市長 渡部守治  
發行人  
印刷人 責任 十勝印刷工業組合

發行者 帶廣市役所

(行印所刷印本松)

14.2  
125



終